

平成27年度

栃木県政世論調査

結果の概要

平成27年10月

栃木県

目次

I	調査の概要	1
II	調査の結果	2
1	暮らしの変化について	
	(1) 暮らしの変化	2
	(1-1) 暮らしが悪くなった理由	3
	(2) 暮らしの満足度	4
	(3) 今後の暮らしの状況	5
	(4) 今後の暮らしで力を入れる点	6
2	県政への要望について	
	(1) 県政への要望	7
3	日常生活について	
	(1) 社会貢献活動について	9
	(2) 芸術・文化活動について	10
	(3) スポーツ活動について	11
	(4) 住んでいる地域について	12
	(5) 「とちぎの元気な森づくり県民税」について	13
4	人権意識について	
	(1) 基本的人権の尊重	14
	(2) 人権侵害の状況	15
	(3) 人権侵害の被害経験	16
	(4) 人権侵害の被害への対処	17
	(5) 人権侵害の加害経験	18
5	生物多様性保全について	
	(1) 自然についての関心	19
	(2) 生物多様性の認知度	20
	(3) 生物多様性保全の取組に対する考え	21
	(4) 生物多様性配慮のために取り組みたいこと	22
6	産業廃棄物処理施設について	
	(1) 廃棄物処理施設を見学した経験	23
	(1-1) 見学した施設の種類	24
	(2) 「産業廃棄物処理施設」のイメージ	25
	(3) 産業廃棄物処理施設を知るために県に求めること	26

(4) 近隣の産業廃棄物処理施設についての考え	27
(4-1) 産業廃棄物処理施設を認める条件	28
7 在宅医療について	
(1) 自宅療養への考え	29
(1-1) 自宅療養実現に対する考え	30
(1-1-1) 自宅療養が難しい理由	31
(1-2) 自宅療養を希望しない理由	32
(2) 訪問診療サービスの認知度	33
(3) 訪問看護サービスの認知度	34
8 地域の移動手段について	
(1) 日常生活における交通手段	35
(2) 路線バスの満足度	36
(2-1) 路線バスについて不満に思う理由	37
(3) デマンド交通の満足度	38
(3-1) デマンド交通について不満に思う理由	39
(4) 地域の公共交通に期待すること	40
9 県立高校の男女共学・別学について	
(1) 男女共学と男女別学に対する考え	41
(2) 男女共学に賛成する理由	42
(3) 男女別学に賛成する理由	43
(4) 県立高校の今後のあり方に対する考え	44
10 犯罪と治安対策について	
(1) 県内の治安状況	45
(2) 不安を感じる犯罪	46
(2-1) 子どもに対する犯罪に不安を感じる理由	47
(3) 公共空間における防犯カメラの設置について	48
(4) 犯罪の発生や防犯に関する情報で知りたいこと	49
(5) 交番や駐在所の警察官に特に力を入れてほしい活動	50
(6) 高齢者の交通事故防止のために必要な対策	51
(7) 自転車の安全利用を促進するために必要な対策	52
(8) 飲酒運転根絶のために必要な対策	53

I 調査の概要

1 調査目的

この調査は、現在あるいは今後解決すべき課題について、県民の県政に対する意識・要望などを的確に把握し、県政施策の企画・立案及び県政執行上の参考に資することを目的とする。

2 調査項目

- (1) 暮らしの変化について*
- (2) 県政への要望について*
- (3) 日常生活について
- (4) 人権意識について
- (5) 生物多様性保全について
- (6) 産業廃棄物処理施設について
- (7) 在宅医療について
- (8) 地域の移動手段について
- (9) 県立高校の男女共学・別学について
- (10) 犯罪と治安対策について

(*印は時系列調査)

3 調査設計

- (1) 調査地域 栃木県全域
- (2) 調査対象 満20歳以上の男女個人
- (3) 標本数 2,000
- (4) 抽出方法 層化二段無作為抽出法
- (5) 調査方法 郵送法（郵送配布一郵送回収）
- (6) 調査時期 平成27年5月21日～6月12日

4 調査機関

株式会社エスピー研

5 回収結果

回収数（率） 1,316（65.8%）

6 報告書の見方

- (1) 比率はすべて百分比で表し、小数点以下第2位を四捨五入して算出した。このために、百分比の合計が100.0%にならないことがある。
- (2) 基数となるべき実数はnとして掲載した。その比率は件数を100%として算出した。
- (3) 1人の回答者が複数回答で行う設問では、その比率の合計が100%を上回ることがある。
- (4) 図表・本文では、スペースの都合等により回答選択肢を省略して表記している場合がある。
- (5) クロス集計では、分析軸の「無回答」を掲載していないため、分析軸における各項目のnの合計値と全体の数値とが合わない場合がある。
- (6) クロス集計時に、nが小さい数字になる場合は統計的誤差が生じる可能性が高いので注意が必要である。

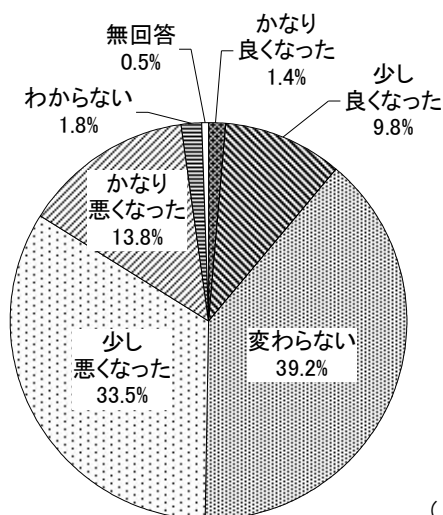
Ⅱ 調査の結果

1 暮らしの変化について

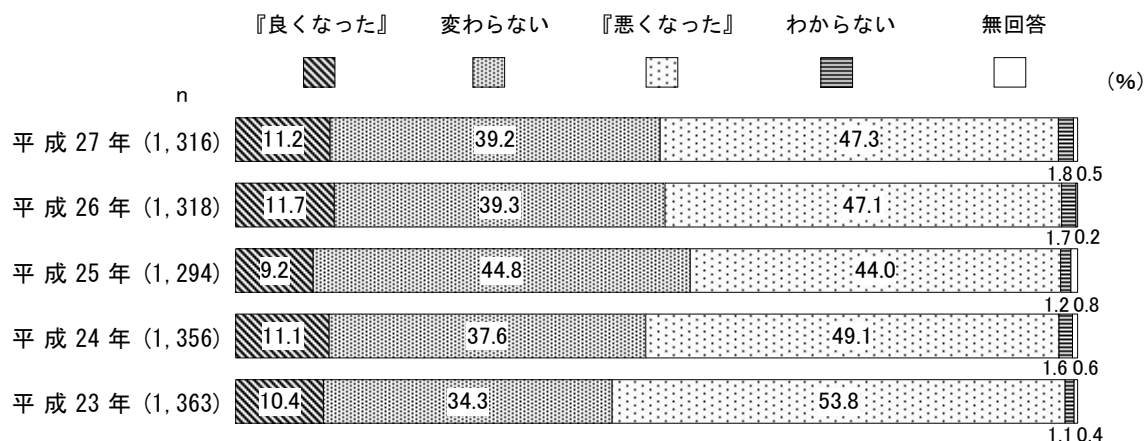
(1) 暮らしの変化

問1 あなたの暮らしは、この5～6年の間にどう変わりましたか。
次の中から1つ選んでください。

[n=1,316]



- ・全体で見ると、「かなり良くなった」(1.4%)と「少し良くなった」(9.8%)の2つを合わせた『良くなった』(11.2%)は1割を超えている。一方、「少し悪くなった」(33.5%)と「かなり悪くなった」(13.8%)の2つを合わせた『悪くなった』(47.3%)は5割近くとなっている。
- ・性別で見ると、大きな傾向の違いはみられない。
- ・性/年齢別で見ると、『良くなった』では〈男性20歳代〉が23.9%、〈女性20歳代〉と〈女性30歳代〉がともに17.5%と高くなっている。一方、『悪くなった』では〈男性65～69歳〉が61.7%、〈女性50歳代〉が56.4%と高くなっている。

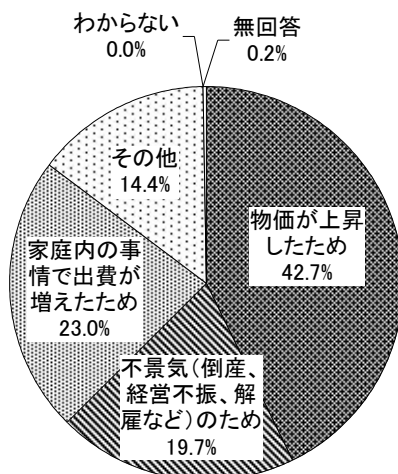


- ・過去の調査結果と比較すると、前回(平成26年)とほぼ同じ割合となっており、『良くなった』は1割前後、『悪くなった』は5割前後で推移している。

(1-1) 暮らしが悪くなった理由

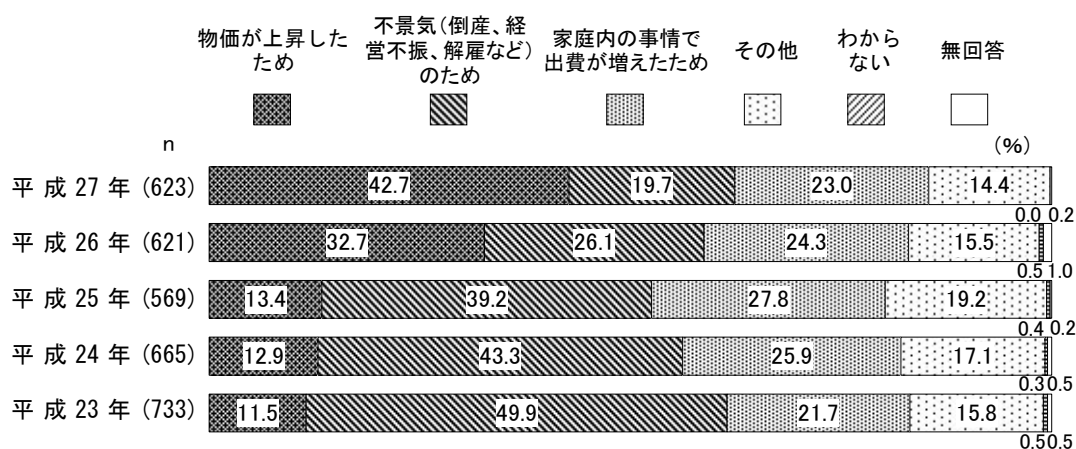
(問1で選択肢「少し悪くなった」、「かなり悪くなった」を選んだ方のみお答えください)

問1-1 悪くなったのは、主にどのようなことからですか。もっとも大きな要因を1つ選んでください。 [n=623]



(n=623)

- ・全体でみると、「物価が上昇したため」(42.7%)が4割を超えて最も高く、次いで「家庭内の事情で出費が増えたため」(23.0%)、「不景気(倒産、経営不振、解雇など)のため」(19.7%)の順となっている。
- ・性別でみると、「不景気(倒産、経営不振、解雇など)のため」では〈男性〉(22.6%)が〈女性〉(16.9%)より5.7ポイント高くなっている。「家庭内の事情で出費が増えたため」では〈女性〉(24.8%)が〈男性〉(21.6%)より3.2ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別でみると、「物価が上昇したため」では〈女性70歳以上〉が65.6%、〈男性70歳以上〉が64.9%と高くなっている。「家庭内の事情で出費が増えたため」では〈女性40歳代〉が46.3%と高くなっている。

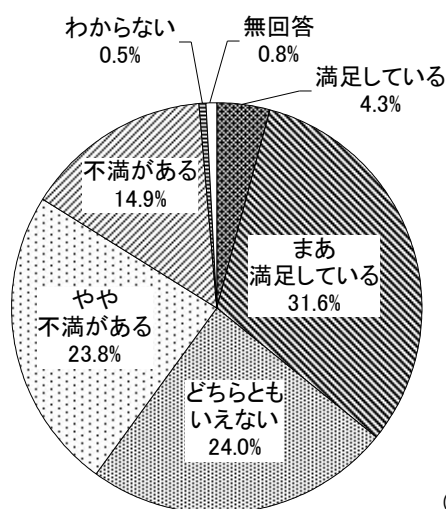


- ・過去の調査結果と比較すると、「物価が上昇したため」が前回(平成26年)より10.0ポイント増加している。一方、「不景気(倒産、経営不振、解雇など)のため」が前回(平成26年)より6.4ポイント減少している。

(2) 暮らしの満足度

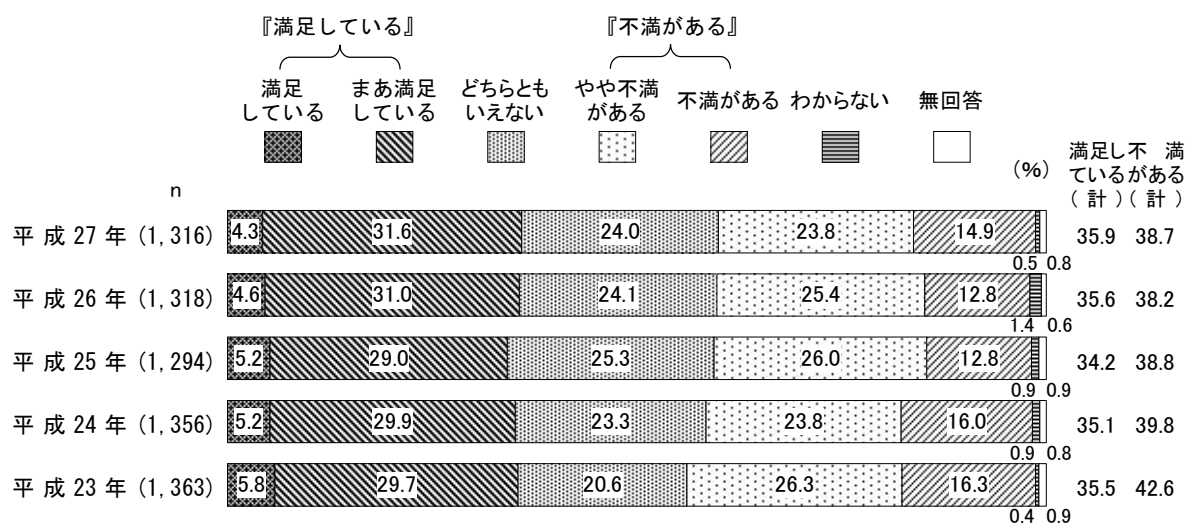
問2 あなたは、今の暮らしについてのどの程度満足していますか。
次の中から1つ選んでください。

[n = 1,316]



(n = 1,316)

- ・全体でみると、「満足している」(4.3%)と「まあ満足している」(31.6%)の2つを合わせた『満足している』(35.9%)は3割半ばとなっている。一方、「やや不満がある」(23.8%)と「不満がある」(14.9%)の2つを合わせた『不満がある』(38.7%)は4割近くとなっている。
- ・性別でみると、『満足している』では〈女性〉(39.8%)が〈男性〉(32.4%)より7.4ポイント高くなっている。『不満がある』では〈男性〉(42.7%)が〈女性〉(35.1%)より7.6ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別でみると、『満足している』では〈女性20歳代〉が50.7%と高くなっている。『不満がある』では〈男性50歳代〉が56.7%、〈女性40歳代〉が50.6%と高くなっている。

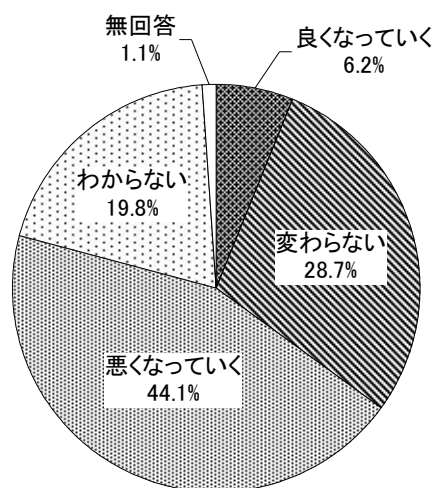


- ・過去の調査結果と比較すると、大きな傾向の変化はみられない。

(3) 今後の暮らしの状況

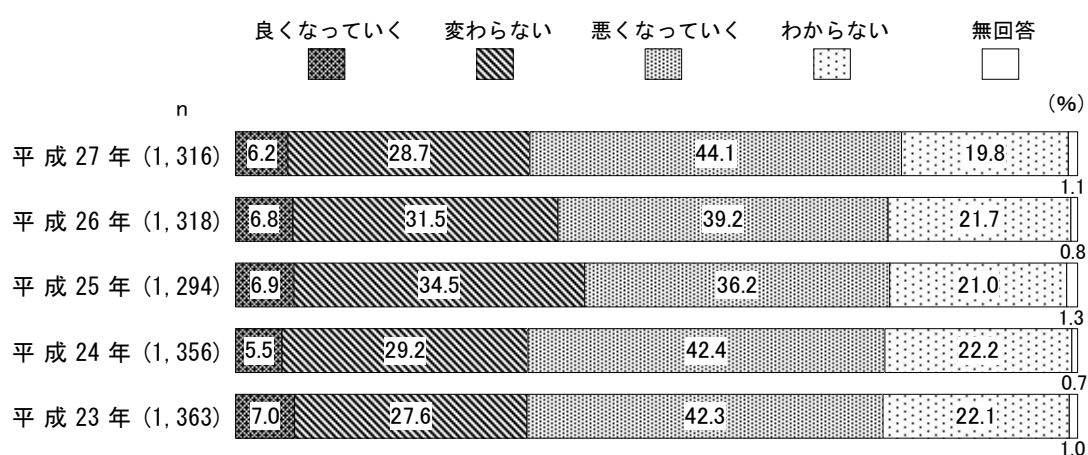
問3 あなたの暮らしは、これから先どうなっていくと思いますか。
次の中から1つ選んでください。

[n=1,316]



(n=1,316)

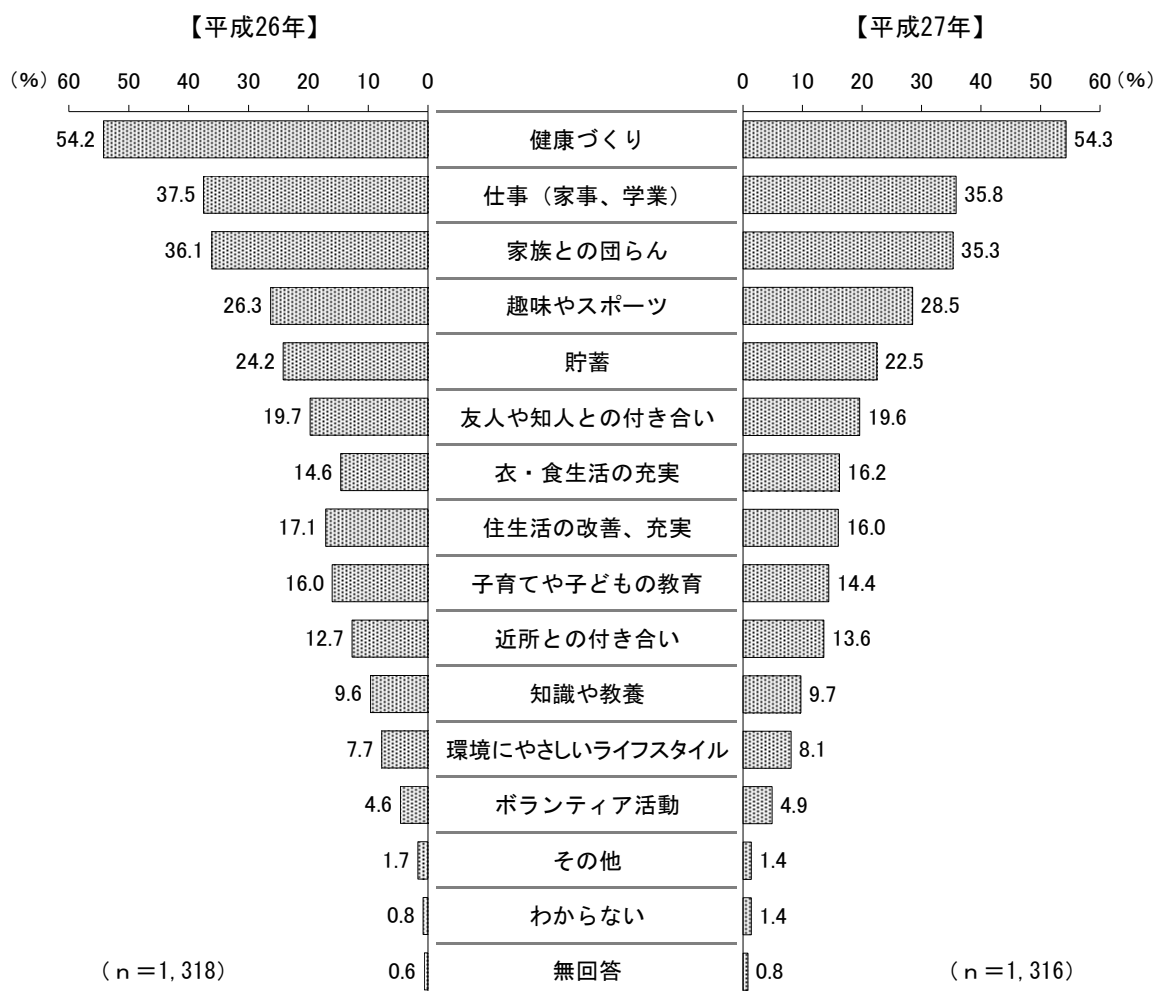
- ・全体で見ると、「良くなっていく」(6.2%)は1割に満たない。「変わらない」(28.7%)は3割近く、「悪くなっていく」(44.1%)は4割半ばとなっている。
- ・性別で見ると、「悪くなっていく」では〈男性〉(46.0%)が〈女性〉(42.5%)より3.5ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別で見ると、「良くなっていく」では〈男性20歳代〉が28.3%と高くなっている。「悪くなっていく」では〈男性65~69歳〉が55.6%、〈女性65~69歳〉が54.2%と高くなっている。



- ・過去の調査結果と比較すると、「悪くなっていく」が前回(平成26年)より4.9ポイント増加している。

(4) 今後の暮らしで力を入れる点

問4 あなたは、今後の暮らしの中で、どのような点に力を入れていきたいと思いますか。
次の中から3つまで選んでください。 [n = 1,316]



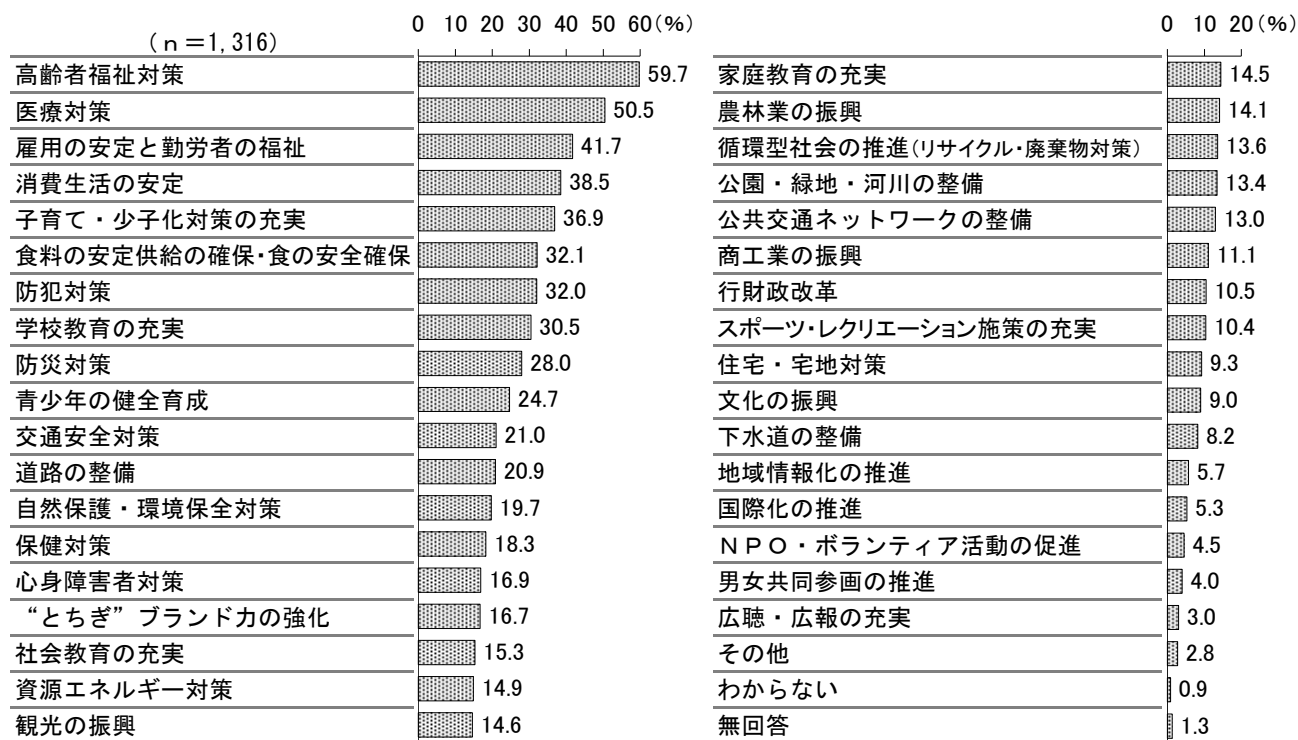
- ・全体で見ると、「健康づくり」(54.3%)が5割半ばで最も高く、次いで「仕事(家事、学業)」(35.8%)、「家族との団らん」(35.3%)、「趣味やスポーツ」(28.5%)、「貯蓄」(22.5%)の順となっている。
- ・性別で見ると、「趣味やスポーツ」では〈男性〉(35.1%)が〈女性〉(23.1%)より12.0ポイント高くなっている。「友人や知人との付き合い」では〈女性〉(23.1%)が〈男性〉(15.1%)より8.0ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別で見ると、「健康づくり」では〈男性70歳以上〉が83.2%、〈男性65～69歳〉が79.0%と高くなっている。「仕事(家事、学業)」では〈女性20歳代〉が66.7%、〈男性20歳代〉が63.0%と高くなっている。「趣味やスポーツ」では〈男性20歳代〉が56.5%と高くなっている。「貯蓄」では〈女性20歳代〉が42.9%と高くなっている。「子育てや子どもの教育」では〈女性30歳代〉が53.8%と高くなっている。「近所との付き合い」では〈女性70歳以上〉が39.9%と高くなっている。
- ・前回(平成26年)の調査結果と比較すると、「趣味やスポーツ」が2.2ポイント増加している。

2 県政への要望について

(1) 県政への要望

問5 県では、皆様のご理解とご協力を得ながら“「安心」「成長」「環境」をともにつくる元気度日本一 栃木県”をめざしていろいろな仕事をしています。あなたが、県政に対して、特に力を入れてほしいことは何ですか。次の中からいくつでも選んでください。

[n=1,316]



- ・全体で見ると、「高齢者福祉対策」(59.7%)が6割で最も高く、次いで「医療対策」(50.5%)、「雇用の安定と勤労者の福祉」(41.7%)、「消費生活の安定」(38.5%)、「子育て・少子化対策の充実」(36.9%)、「食料の安定供給の確保・食の安全確保」(32.1%)、「防犯対策」(32.0%)、「学校教育の充実」(30.5%)の順となっている。
- ・性別で見ると、「食料の安定供給の確保・食の安全確保」では〈女性〉(38.3%)が〈男性〉(25.8%)より12.5ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別で見ると、「高齢者福祉対策」では〈男性70歳以上〉が84.0%、〈女性70歳以上〉が81.8%と高くなっている。「医療対策」では〈女性40歳代〉が63.6%と高くなっている。「雇用の安定と勤労者の福祉」では〈女性20歳代〉が58.7%と高くなっている。「子育て・少子化対策の充実」では〈女性30歳代〉が65.0%、〈男性30歳代〉が62.3%と高くなっている。「学校教育の充実」では〈女性30歳代〉が50.0%、〈女性40歳代〉が49.5%と高くなっている。

[過去の調査結果]

(上位5項目)

順位 年	1 位	2 位	3 位	4 位	5 位
平成27年	高齢者福祉対策 59.7%	医療対策 50.5%	雇用の安定と勤労者の福祉 41.7%	消費生活の安定 38.5%	子育て・少子化対策の充実 36.9%
平成26年	高齢者福祉対策 57.6%	医療対策 51.7%	雇用の安定と勤労者の福祉 45.4%	消費生活の安定 38.0%	子育て・少子化対策の充実 35.8%
平成25年	高齢者福祉対策 58.0%	医療対策 54.9%	雇用の安定と勤労者の福祉 46.6%	子育て・少子化対策の充実 35.5%	学校教育の充実 35.1%
平成24年	高齢者福祉対策 55.8%	医療対策 52.9%	雇用の安定と勤労者の福祉 48.7%	消費生活の安定 38.1%	食料の安定供給の確保・食の安全確保 37.8%
平成23年	高齢者福祉対策 57.0%	医療対策 54.1%	雇用の安定と勤労者の福祉 50.0%	食料の安定供給の確保・食の安全確保 35.2%	消費生活の安定 35.0%
平成22年	高齢者福祉対策 62.1%	医療対策 57.1%	雇用の安定と勤労者の福祉 53.3%	消費生活の安定 36.4%	食料の安定供給の確保・食の安全確保 34.5%
平成21年	医療対策 65.1%	高齢者福祉対策 62.8%	雇用の安定と勤労者の福祉 47.3%	消費生活の安定 41.6%	食料の安定供給の確保・食の安全確保 37.5%
平成20年	高齢者福祉対策 62.9%	医療対策 60.7%	消費生活の安定 44.3%	食料の安定供給の確保 41.6%	防犯対策 39.2%
平成19年	高齢者福祉対策 62.6%	医療対策 57.6%	防犯対策 36.3%	雇用の安定と勤労者の福祉 35.8%	学校教育の充実 35.6%
平成18年	高齢者福祉対策 55.2%	医療対策 51.4%	防犯対策 40.3%	子育て・少子化対策の充実 37.2%	雇用の安定と勤労者の福祉 36.8%
平成17年	高齢者福祉対策 56.3%	医療対策 51.0%	防犯対策 43.6%	青少年の健全育成 37.9%	雇用の安定と勤労者の福祉 37.6%
平成16年	高齢者福祉対策 55.1%	医療対策 45.6%	雇用の安定と勤労者の福祉 39.7%	防犯対策 35.9%	青少年の健全育成 34.3%
平成15年	高齢者福祉対策 55.6%	医療対策 46.7%	雇用の安定と勤労者の福祉 41.5%	青少年の健全育成／防犯対策 34.1%	
平成14年	高齢者福祉対策 57.1%	医療対策 48.3%	雇用の安定と勤労者の福祉 41.7%	青少年の健全育成 34.5%	廃棄物の処理対策 32.7%
平成13年	高齢者福祉対策 51.7%	青少年の健全育成 43.6%	廃棄物の処理対策 42.0%	医療対策 39.9%	雇用の安定と勤労者の福祉 36.2%

※平成20年以前では「食料の安定供給の確保・食の安全確保」は「食料の安定供給の確保」としていた。

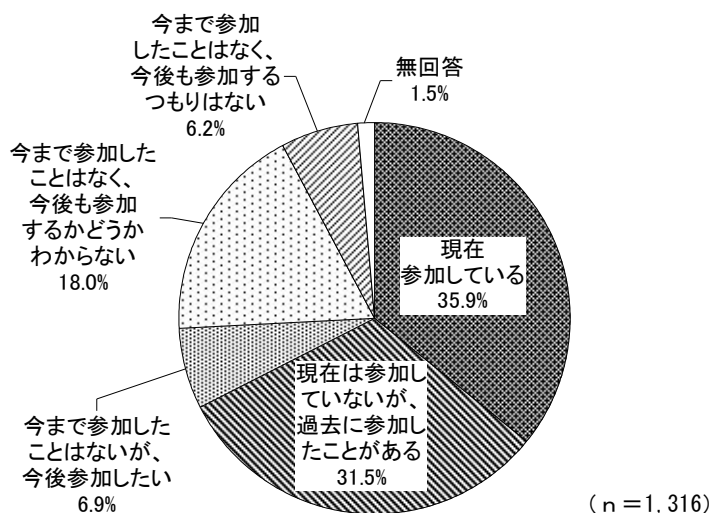
・上位5項目を過去の調査結果と比較すると、上位5項目は前回（平成26年）と同じ順位となっている。また、上位3項目は平成22年以降同じ順位となっている。

3 日常生活について

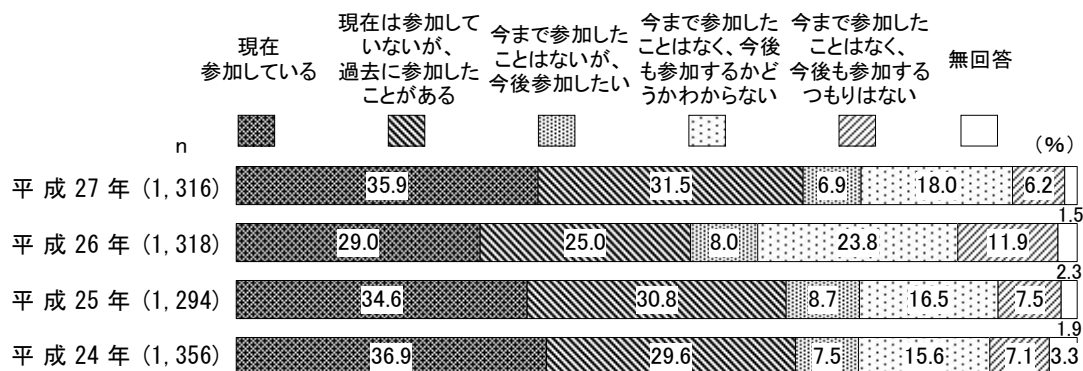
(1) 社会貢献活動について

問6 あなたは、社会貢献活動（※）に参加したことがありますか。また、今後参加したいと思いますか。次の中から1つ選んでください。 [n=1,316]

※ 社会貢献活動とは、例えば、募金、寄附、プルタブ・エコキャップなどの物品収集や公園清掃などの活動、ボランティアやNPO（非営利活動団体）活動、コミュニティ活動、自治会、育成会等の地域活動などを言います。



- ・全体でみると、「現在参加している」(35.9%)は3割半ばとなっている。「現在参加していないが、過去に参加したことがある」(31.5%)は3割を超え、「今まで参加したことはなく、今後参加するかどうか分からない」(18.0%)は2割近くとなっている。
- ・性別でみると、「現在参加していないが、過去に参加したことがある」では〈女性〉(34.9%)が〈男性〉(27.9%)より7.0ポイント高くなっている。「今まで参加したことはなく、今後参加するかどうか分からない」では〈男性〉(21.3%)が〈女性〉(15.2%)より6.1ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別でみると、「現在参加している」では〈女性60～64歳〉が52.8%と高くなっている。「今まで参加したことはなく、今後参加するかどうか分からない」では〈男性30歳代〉が34.8%、〈男性20歳代〉が30.4%と高くなっている。



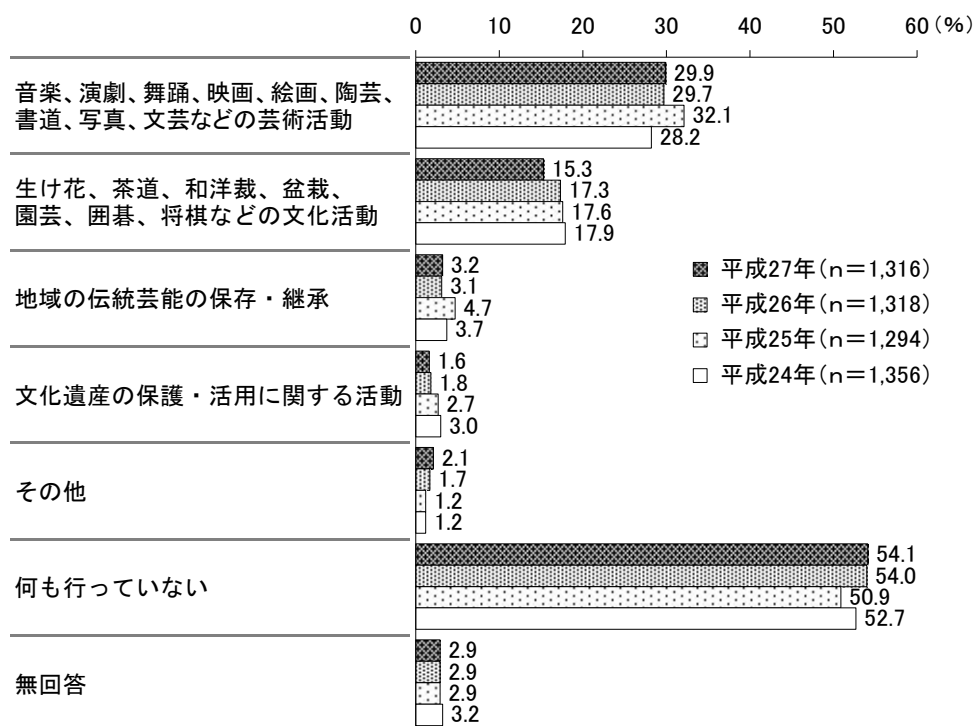
- ・過去の調査結果と比較すると、前回(平成26年)より「現在参加している」が6.9ポイント、「現在参加していないが、過去に参加したことがある」が6.5ポイント増加している。一方、前回(平成26年)より「今まで参加したことはなく、今後参加するかどうか分からない」が5.8ポイント、「今まで参加したことはなく、今後参加するつもりはない」が5.7ポイント減少している。

(2) 芸術・文化活動について

問7 あなたが日ごろ行っている芸術・文化活動は、どのようなものですか。

次の中からいくつでも選んでください。

[n=1,316]



- ・全体でみると、「音楽、演劇、舞踊、映画、絵画、陶芸、書道、写真、文芸などの芸術活動（以下『芸術活動』という。）」(29.9%)が3割で最も高く、次いで「生け花、茶道、和洋裁、盆栽、園芸、囲碁、将棋などの文化活動（以下『文化活動』という。）」(15.3%)が1割半ばとなっている。一方、「何も行っていない」(54.1%)は5割半ばとなっている。
- ・性別でみると、『芸術活動』では〈女性〉(33.7%)が〈男性〉(25.9%)より7.8ポイント高く、『文化活動』では〈女性〉(17.7%)が〈男性〉(12.8%)より4.9ポイント高くなっている。「何も行っていない」では〈男性〉(58.6%)が〈女性〉(50.4%)より8.2ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別でみると、『芸術活動』では〈女性30歳代〉が42.5%、〈女性20歳代〉が41.3%と高くなっている。『文化活動』では〈女性65～69歳〉が27.7%、〈女性70歳以上〉が25.0%と高くなっている。
- ・過去の調査結果と比較すると、『文化活動』が前回(平成26年)より2.0ポイント減少している。

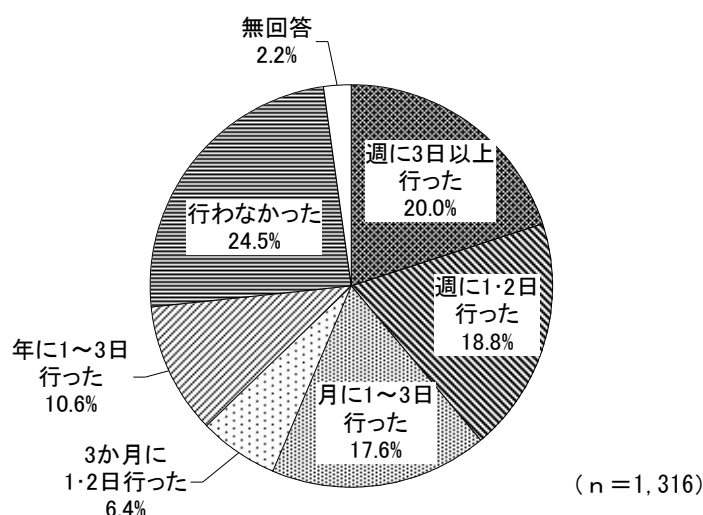
(3) スポーツ活動について

問8 あなたは、この1年間にスポーツ（※）を行いましたか。

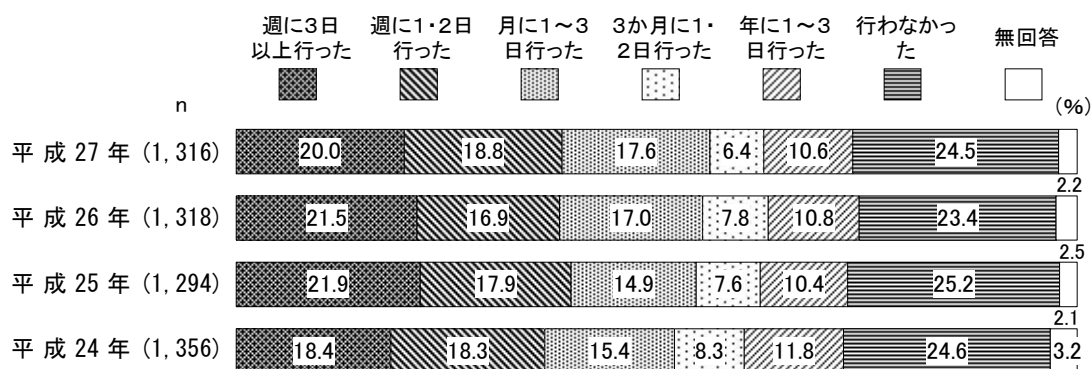
次の中から1つ選んでください。

[n=1,316]

※ スポーツとは、ウォーキング、散歩、ダンス、ボウリング、ハイキング・キャンプなどのアウトドアスポーツ、軽い体操、レクリエーションスポーツを含みます。



- ・全体で見ると、「週に3日以上行った」(20.0%)は2割となっている。「週に1・2日行った」(18.8%)と「月に1～3日行った」(17.6%)はともに2割近くとなっている。一方、「行わなかった」(24.5%)は2割半ばとなっている。
- ・性別で見ると、「月に1～3日行った」では〈男性〉(20.5%)が〈女性〉(15.2%)より5.3ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別で見ると、「週に3日以上行った」では〈男性70歳以上〉が39.2%と高くなっている。「行わなかった」では〈男性50歳代〉が32.7%、〈女性50歳代〉が30.2%、〈女性70歳以上〉が29.7%と高くなっている。

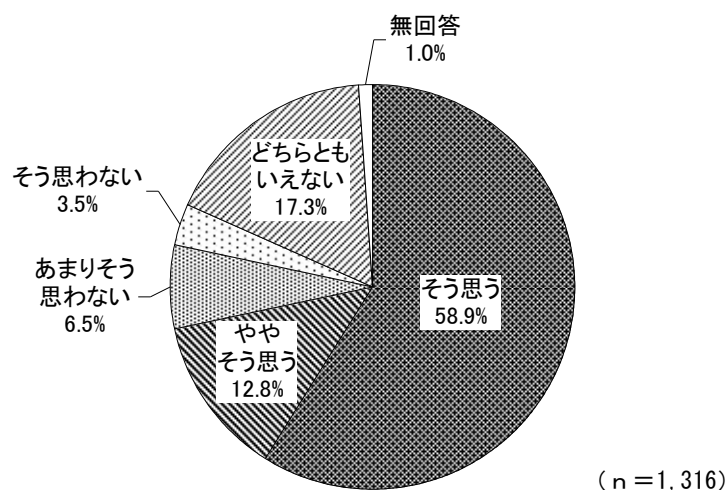


- ・過去の調査結果と比較すると、大きな傾向の変化はみられない。

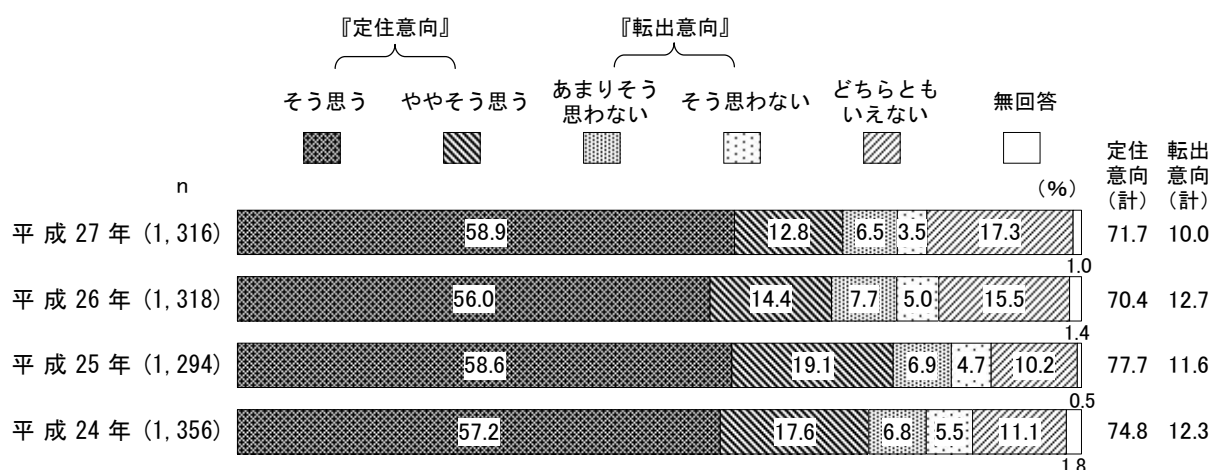
(4) 住んでいる地域について

問9 あなたは、住んでいる地域にこれからも住み続けたいと思いますか。
次の中から1つ選んでください。

[n=1,316]



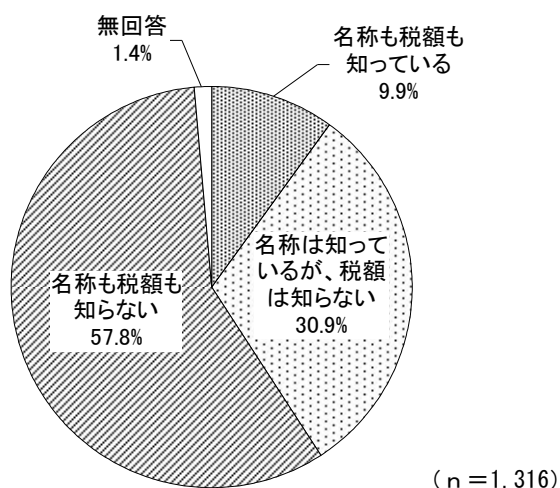
- ・全体でみると、「そう思う」(58.9%)と「ややそう思う」(12.8%)の2つを合わせた『定住意向』(71.7%)は7割を超えている。一方、「あまりそう思わない」(6.5%)と「そう思わない」(3.5%)の2つを合わせた『転出意向』(10.0%)は1割となっている。
- ・性別でみると、「そう思う」では〈男性〉(61.7%)が〈女性〉(56.2%)より5.5ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別でみると、『定住意向』では〈女性70歳以上〉が85.8%、〈男性70歳以上〉が82.4%と高くなっている。『転出意向』では〈女性40歳代〉が18.2%と高くなっている。



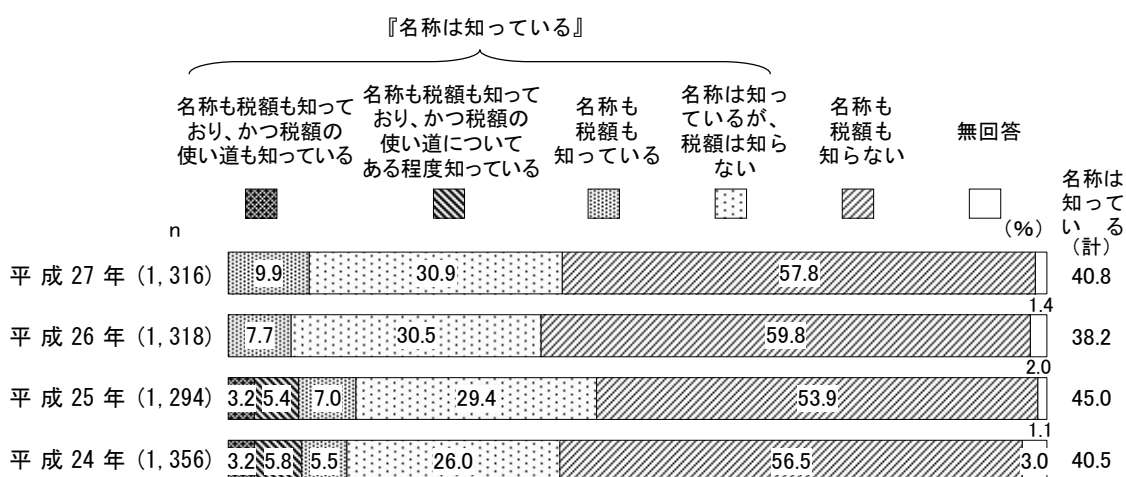
- ・過去の調査結果と比較すると、『転出意向』が前回(平成26年)より2.7ポイント減少している。

(5) 「とちぎの元気な森づくり県民税」について

問10 あなたは、森林を守り育て、元気な姿で次の世代に引き継いでいくため、平成20年4月から本県で導入している「とちぎの元気な森づくり県民税」、いわゆる森林環境税を知っていますか。次の中から1つ選んでください。 [n=1,316]



- ・全体で見ると、「名称も税額も知っている」(9.9%)は1割、「名称は知っているが、税額は知らない」(30.9%)はほぼ3割となっており、この2つを合わせた『名称は知っている』(40.8%)はほぼ4割となっている。一方、「名称も税額も知らない」(57.8%)は6割近くとなっている。
- ・性別で見ると、『名称は知っている』では〈男性〉(47.1%)が〈女性〉(34.8%)より12.3ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別で見ると、『名称は知っている』では〈男性70歳以上〉が67.2%と高くなっている。「名称も税額も知らない」では〈男性20歳代〉が89.1%、〈女性20歳代〉が84.1%と高くなっている。



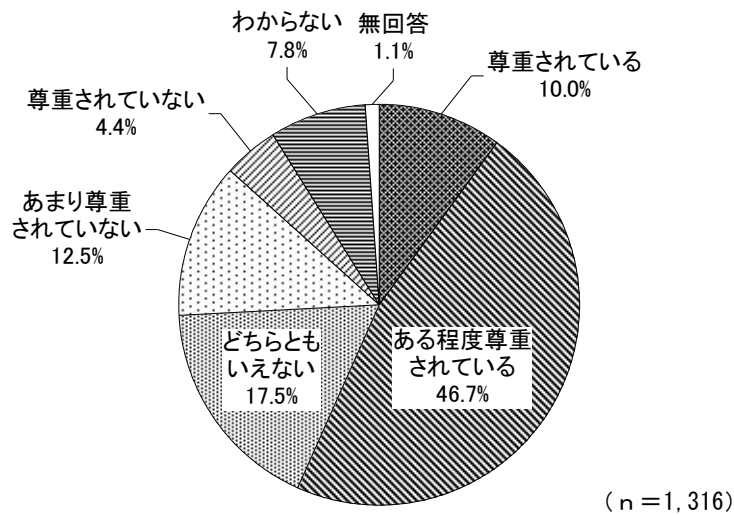
※「名称も税額も知っており、かつ税額の使い道も知っている」と「名称も税額も知っており、かつ税額の使い道についてある程度知っている」はともに平成25年調査まで聞いており、今回調査では選択肢に加えていない。
 ※平成24年・25年調査では、「名称も税額も知っている」は「名称と税額のみ知っている」としていた。

- ・過去の調査結果と比較すると、『名称は知っている』が前回(平成26年)より2.6ポイント増加している。

4 人権意識について

(1) 基本的人権の尊重

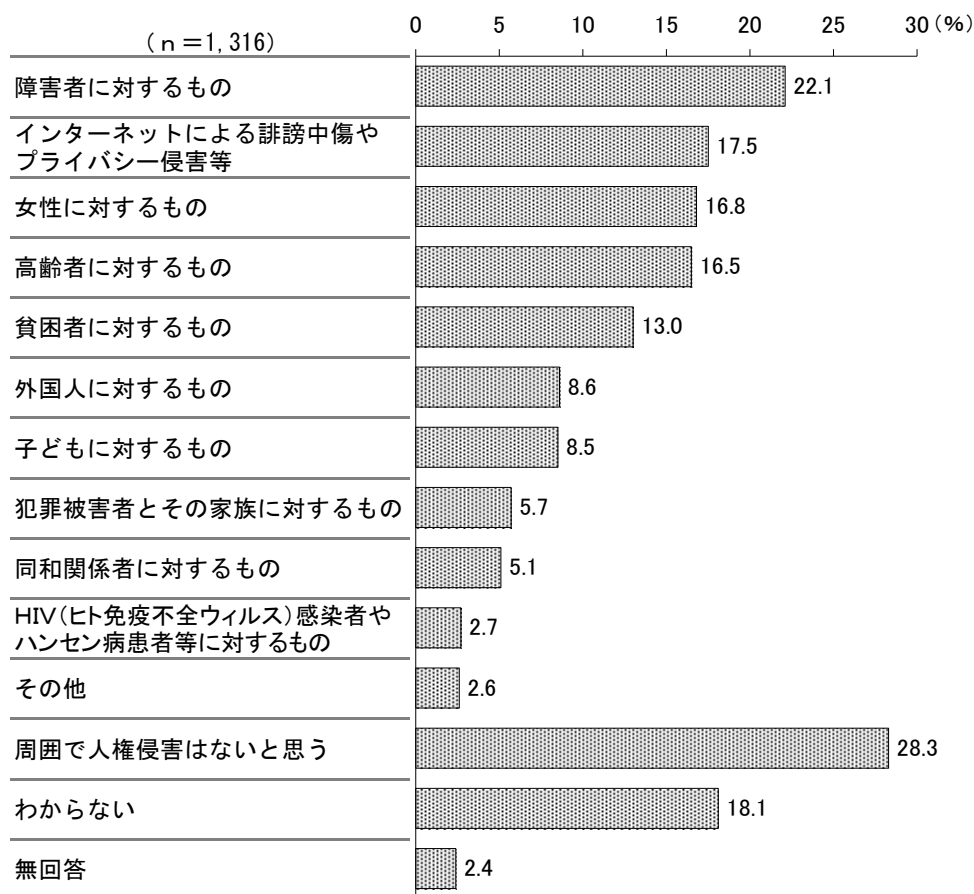
問11 あなたは、「現在の日本は、基本的人権が尊重されている社会である」と思いますか。
次の中から1つ選んでください。 [n=1,316]



- ・全体で見ると、「尊重されている」(10.0%)と「ある程度尊重されている」(46.7%)の2つを合わせた『尊重されている』(56.7%)は6割近くとなっている。一方、「あまり尊重されていない」(12.5%)と「尊重されていない」(4.4%)の2つを合わせた『尊重されていない』(16.9%)は2割近くとなっている。
- ・性別で見ると、『尊重されている』では〈男性〉(62.5%)が〈女性〉(52.9%)より9.6ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別で見ると、『尊重されている』では〈男性65~69歳〉が79.1%と高くなっている。『尊重されていない』では〈男性40歳代〉が25.3%と高くなっている。

(2) 人権侵害の状況

問12 あなたの周りの日常生活において、どのような人権侵害（差別など）がありますか。
次の中からいくつでも選んでください。 [n=1,316]



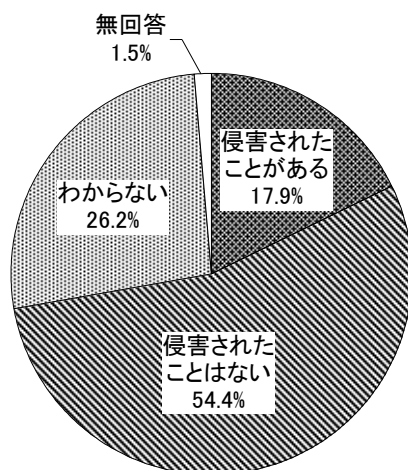
- ・全体で見ると、「障害者に対するもの」(22.1%)が2割を超えて最も高く、次いで「インターネットによる誹謗中傷やプライバシー侵害等」(17.5%)、「女性に対するもの」(16.8%)、「高齢者に対するもの」(16.5%)、「貧困者に対するもの」(13.0%)の順となっている。一方、「周囲で人権侵害はないと思う」(28.3%)は3割近くとなっている。
- ・性別で見ると、「女性に対するもの」では〈女性〉(23.4%)が〈男性〉(10.2%)より13.2ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別で見ると、「障害者に対するもの」では〈女性20歳代〉が41.3%と高くなっている。「インターネットによる誹謗中傷やプライバシー侵害等」では〈男性20歳代〉が39.1%、〈女性20歳代〉が38.1%と高くなっている。「女性に対するもの」では〈女性30歳代〉が42.5%と高くなっている。「周囲で人権侵害はないと思う」では〈女性70歳以上〉が44.6%と高くなっている。

(3) 人権侵害の被害経験

問13 あなたは、今までにご自身の人権が侵害されたと思っただことがありますか。

次の中から1つ選んでください。

[n = 1,316]

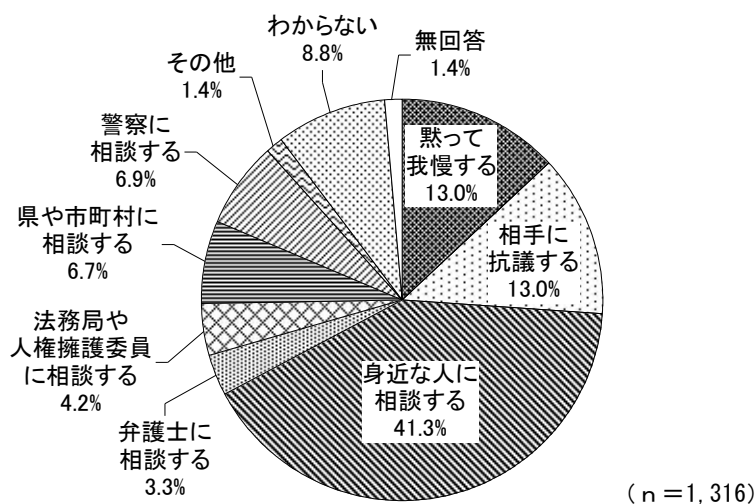


(n = 1,316)

- ・全体でみると、「侵害されたことがある」(17.9%)は2割近く、「侵害されたことはない」(54.4%)は5割半ばとなっている。
- ・性別でみると、「侵害されたことがある」では〈女性〉(22.1%)が〈男性〉(12.8%)より9.3ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別でみると、「侵害されたことがある」では〈女性30歳代〉が35.0%と高くなっている。「侵害されたことはない」では〈男性70歳以上〉が72.8%と高くなっている。

(4) 人権侵害の被害への対処

問14 もし、あなたがご自身の人権を侵害された場合、まず初めにどう対応しますか。
次の中から1つ選んでください。 [n=1,316]

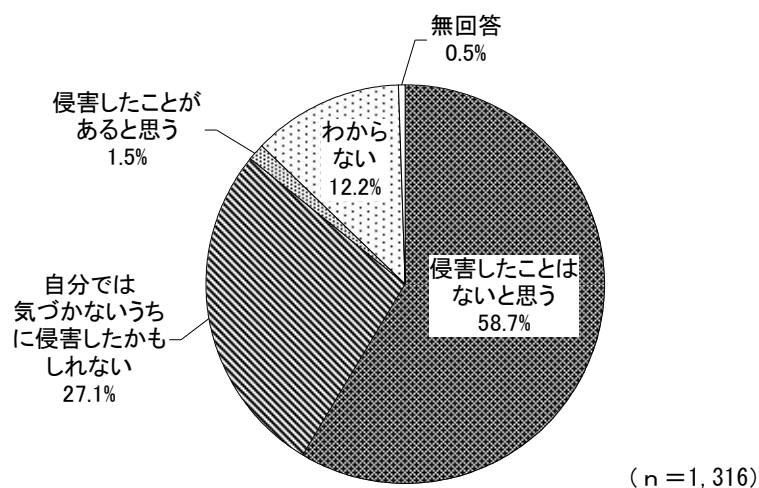


- ・全体で見ると、「身近な人に相談する」(41.3%)が4割を超えて最も高く、次いで「黙って我慢する」と「相手に抗議する」(ともに13.0%)、「警察に相談する」(6.9%)、「県や市町村に相談する」(6.7%)の順となっている。
- ・性別で見ると、「身近な人に相談する」では〈女性〉(49.5%)が〈男性〉(31.7%)より17.8ポイント高く、「黙って我慢する」では〈女性〉(16.8%)が〈男性〉(9.4%)より7.4ポイント高くなっている。「相手に抗議する」では〈男性〉(18.6%)が〈女性〉(8.0%)より10.6ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別で見ると、「身近な人に相談する」では〈女性30歳代〉が60.0%と高くなっている。「黙って我慢する」では〈女性20歳代〉が28.6%と高くなっている。「県や市町村に相談する」では〈男性60～64歳〉が23.9%と高くなっている。

(5) 人権侵害の加害経験

問15 あなたは、今までに他人の人権を侵害したことがあると思いますか。
次の中から1つ選んでください。

[n=1,316]



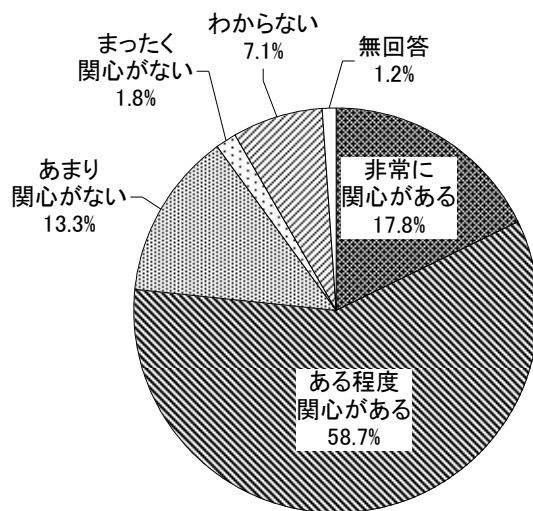
- ・全体で見ると、「侵害したことはないと思う」(58.7%)は6割近く、「自分では気づかなくうちに侵害したかもしれない」(27.1%)は3割近くとなっている。
- ・性別で見ると、大きな傾向の違いはみられない。
- ・性/年齢別で見ると、「侵害したことはないと思う」では〈男性65～69歳〉が72.8%、〈女性70歳以上〉が72.3%、〈男性70歳以上〉が72.0%と高くなっている。「自分では気づかなくうちに侵害したかもしれない」では〈女性20歳代〉が41.3%、〈男性40歳代〉が40.2%と高くなっている。「侵害したことがあると思う」では〈男性20歳代〉が10.9%と高くなっている。

5 生物多様性保全について

(1) 自然についての関心

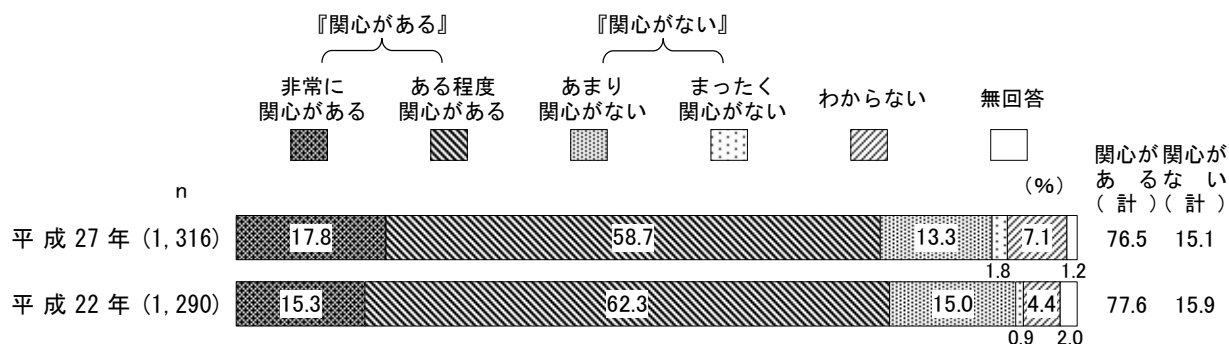
問16 あなたは、自然についてどの程度関心がありますか。
次の中から1つ選んでください。

[n = 1,316]



(n = 1,316)

- ・全体でみると、「非常に興味がある」(17.8%)と「ある程度興味がある」(58.7%)の2つを合わせた『関心がある』(76.5%)は8割近くとなっている。一方、「あまり興味がない」(13.3%)と「まったく興味がない」(1.8%)の2つを合わせた『関心がない』(15.1%)は1割半ばとなっている。
- ・性別でみると、『関心がある』では〈男性〉(82.0%)が〈女性〉(71.8%)より10.2ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別でみると、『関心がある』では〈男性65～69歳〉が88.9%、〈男性60～64歳〉が87.5%と高くなっている。『関心がない』では〈女性40歳代〉が27.3%、〈女性30歳代〉が25.0%と高くなっている。



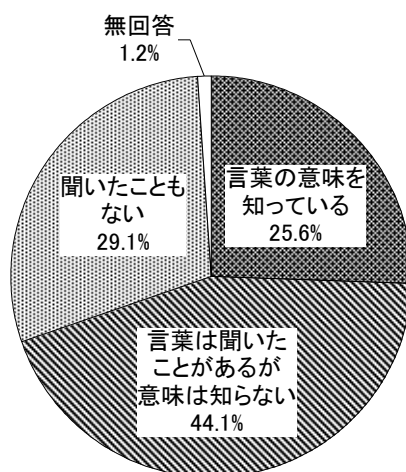
- ・平成22年の調査結果と比較すると、大きな傾向の変化はみられない。

(2) 生物多様性の認知度

問17 あなたは、「生物多様性」の言葉の意味を知っていますか。

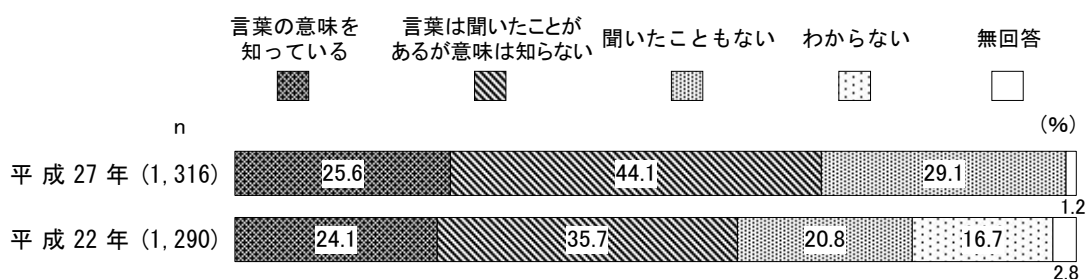
次の中から1つ選んでください。

[n=1,316]



(n=1,316)

- ・全体でみると、「言葉の意味を知っている」(25.6%)は2割半ば、「言葉は聞いたことがあるが意味は知らない」(44.1%)は4割半ばとなっている。一方、「聞いたこともない」(29.1%)はほぼ3割となっている。
- ・性別でみると、「言葉の意味を知っている」では〈男性〉(31.4%)が〈女性〉(20.7%)より10.7ポイント高くなっている。「聞いたこともない」では〈女性〉(32.8%)が〈男性〉(24.8%)より8.0ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別でみると、「言葉の意味を知っている」では〈男性20歳代〉が39.1%、〈男性65～69歳〉が37.0%と高くなっている。「聞いたこともない」では〈女性50歳代〉が35.7%、〈女性30歳代〉が35.0%と高くなっている。

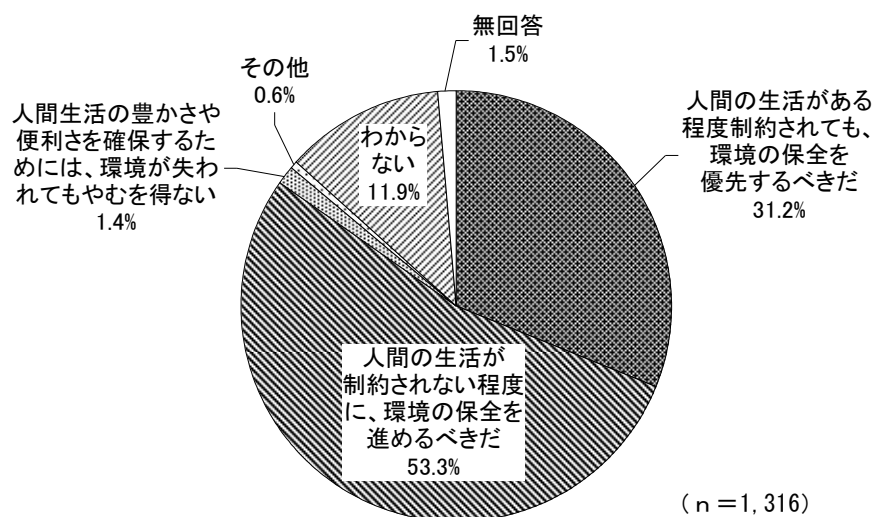


- ・平成22年の調査結果との比較については、今回調査で「わからない」の選択肢を加えていないため参考にとどまるが、「言葉の意味を知っている」の割合に大きな傾向の変化はみられない。

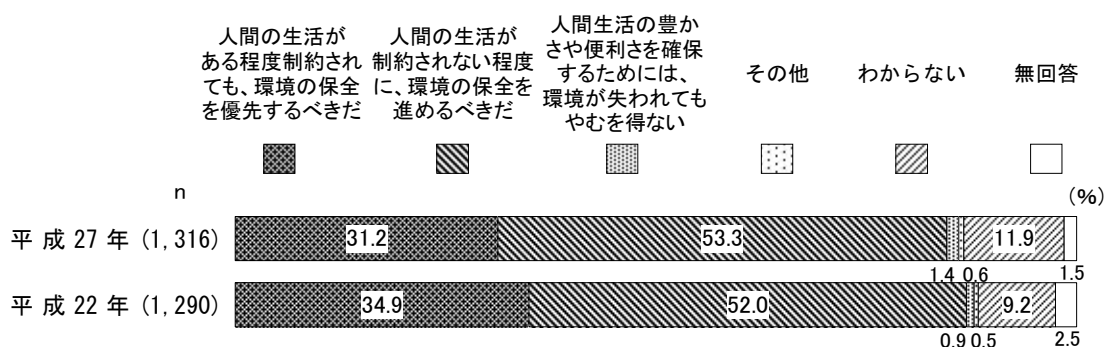
(3) 生物多様性保全の取組に対する考え

問18 生物多様性（※）保全のため、地球上のさまざまな生物やそれらが生息できる環境を守る取組が進められていますが、このことについて、あなたはどのように考えますか。次の中から1つ選んでください。 [n=1,316]

※ 生物多様性とは、生態系、種、遺伝子がそれぞれバラエティに富んでいることを言います。



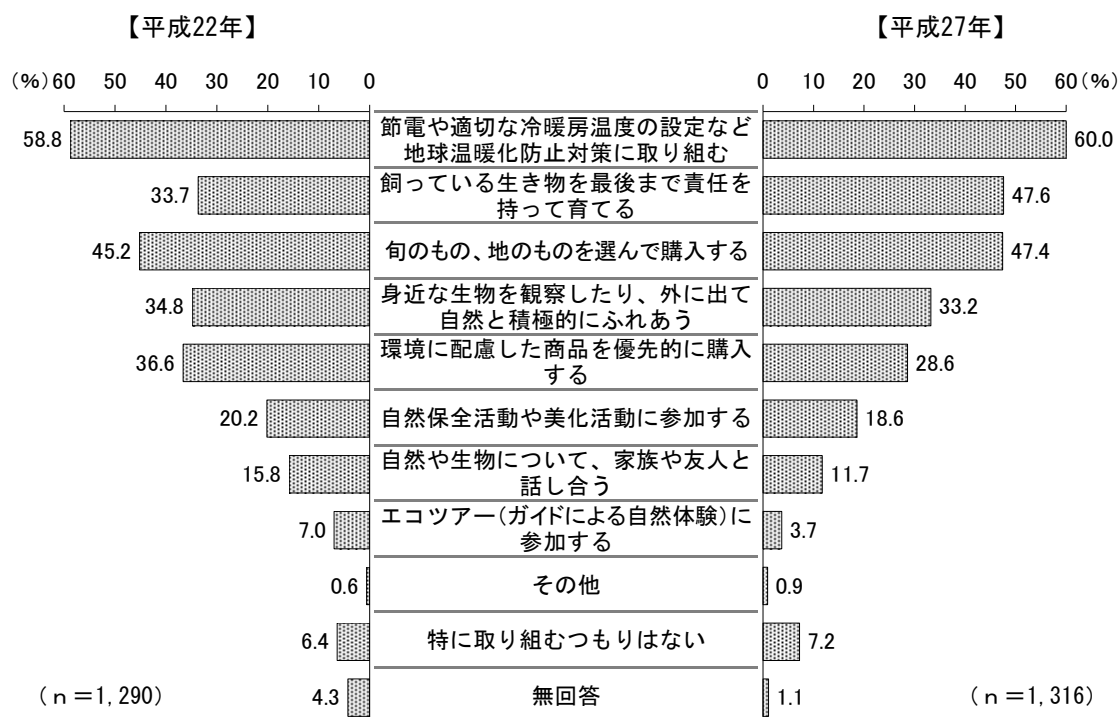
- ・全体で見ると、「人間の生活が制約されない程度に、環境の保全を進めるべきだ」(53.3%)が5割を超えて最も高く、次いで「人間の生活がある程度制約されても、環境の保全を優先するべきだ」(31.2%)は3割を超えている。
- ・性別で見ると、「人間の生活がある程度制約されても、環境の保全を優先するべきだ」では〈男性〉(33.7%)が〈女性〉(29.4%)より4.3ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別で見ると、「人間の生活が制約されない程度に、環境の保全を進めるべきだ」では〈男性70歳以上〉が65.6%、〈男性20歳代〉が63.0%、〈女性70歳以上〉が62.8%と高くなっている。「人間の生活がある程度制約されても、環境の保全を優先するべきだ」では〈男性40歳代〉が44.8%、〈女性30歳代〉が43.8%、〈男性30歳代〉が43.5%、〈女性20歳代〉が42.9%と高くなっている。



- ・平成22年の調査結果と比較すると、「人間の生活がある程度制約されても、環境の保全を優先するべきだ」が3.7ポイント減少している。

(4) 生物多様性配慮のために取り組みたいこと

問19 あなたは、生物多様性に配慮した生活のために、今後どのようなことに取り組んでいきたいですか。次の中からいくつでも選んでください。 [n = 1, 316]



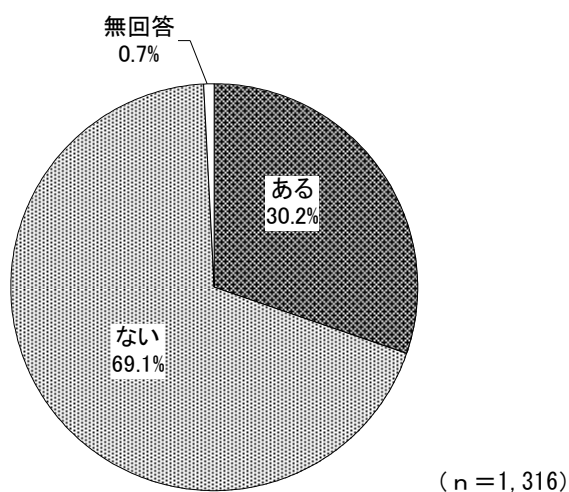
- ・全体で見ると、「節電や適切な冷暖房温度の設定など地球温暖化防止対策に取り組む」(60.0%)が6割で最も高く、次いで「飼っている生き物を最後まで責任を持って育てる」(47.6%)、「旬のもの、地のものを選んで購入する」(47.4%)、「身近な生物を観察したり、外に出て自然と積極的にふれあう」(33.2%)の順となっている。
- ・性別で見ると、「旬のもの、地のものを選んで購入する」では〈女性〉(54.2%)が〈男性〉(39.9%)より14.3ポイント高く、「環境に配慮した商品を優先的に購入する」では〈女性〉(32.6%)が〈男性〉(24.3%)より8.3ポイント高く、「節電や適切な冷暖房温度の設定など地球温暖化防止対策に取り組む」では〈女性〉(64.1%)が〈男性〉(56.0%)より8.1ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別で見ると、「節電や適切な冷暖房温度の設定など地球温暖化防止対策に取り組む」では〈女性40歳代〉が71.7%、〈女性60～64歳〉が70.8%と高くなっている。「飼っている生き物を最後まで責任を持って育てる」では〈女性20歳代〉が65.1%と高くなっている。
- ・平成22年の調査結果と比較すると、「飼っている生き物を最後まで責任を持って育てる」が13.9ポイント増加し、「環境に配慮した商品を優先的に購入する」が8.0ポイント減少している。

6 産業廃棄物処理施設について

(1) 廃棄物処理施設を見学した経験

問20 あなたは、廃棄物処理施設を見学したことがありますか。
次の中から1つ選んでください。

[n=1,316]



- ・全体で見ると、「ある」は30.2%、「ない」は69.1%となっている。
- ・性別で見ると、「ある」では〈男性〉(35.0%)が〈女性〉(25.9%)より9.1ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別で見ると、「ある」では〈男性20歳代〉が47.8%と高くなっている。

(1-1) 見学した施設の種類

(問20で選択肢「ある」を選んだ方のみお答えください)

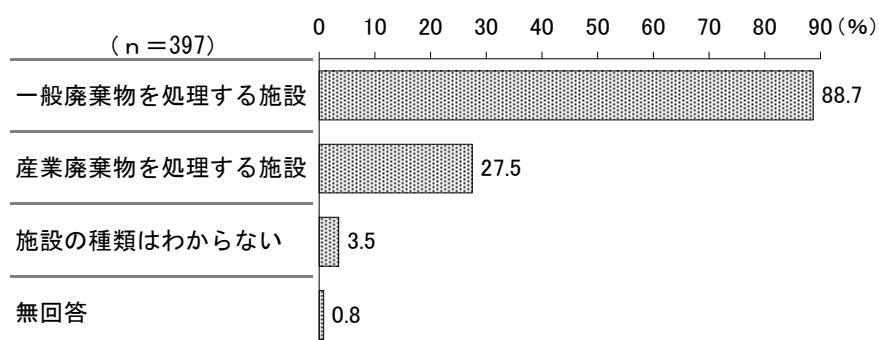
問20-1 見学した施設はどのような施設でしたか。

次の中からいくつでも選んでください。

[n = 397]

※1 一般廃棄物とは、生活ゴミなど一般家庭から排出される廃棄物のことです。

※2 産業廃棄物とは、民間企業の事業活動（工場で製品を生産する、建物を解体するなど）から排出される廃棄物のことです。



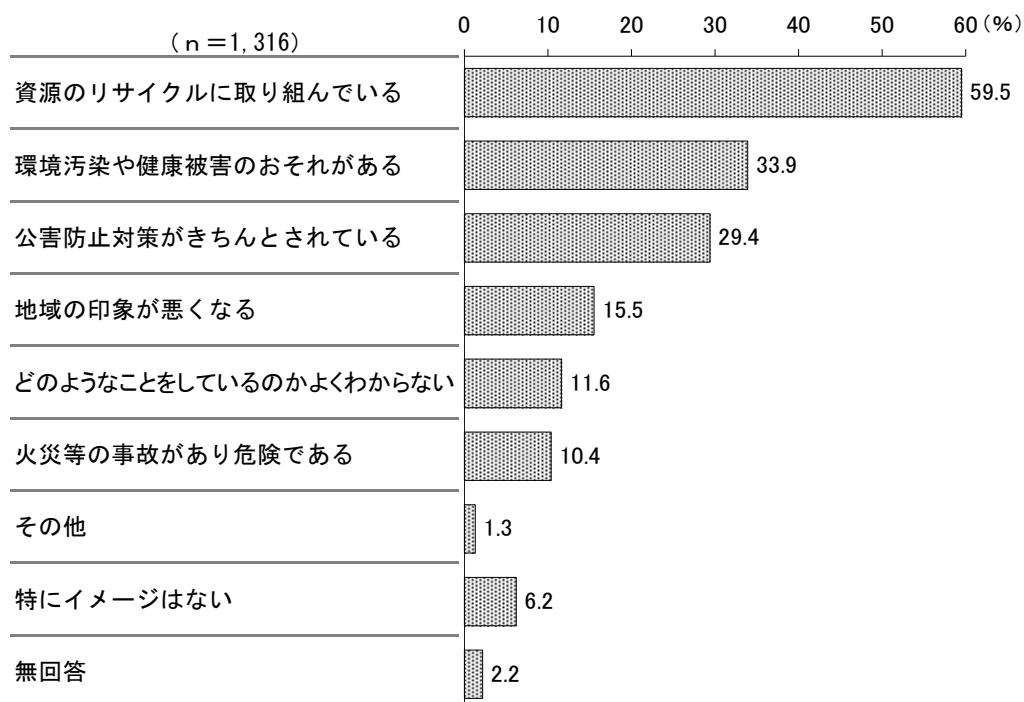
- ・全体で見ると、「一般廃棄物を処理する施設」が88.7%と最も高く、次いで「産業廃棄物を処理する施設」が27.5%、「施設の種類はわからない」が3.5%の順となっている。
- ・性別で見ると、「産業廃棄物を処理する施設」では〈男性〉(40.4%)が〈女性〉(12.1%)より28.3ポイント、「一般廃棄物を処理する施設」では〈女性〉(94.3%)が〈男性〉(84.5%)より9.8ポイント、それぞれ高くなっている。
- ・性/年齢別で見ると、「産業廃棄物を処理する施設」では〈男性60～64歳〉が59.3%と高くなっている。

(2) 「産業廃棄物処理施設」のイメージ

問21 あなたは「産業廃棄物処理施設」にどのようなイメージがありますか。

次の中からいくつでも選んでください。

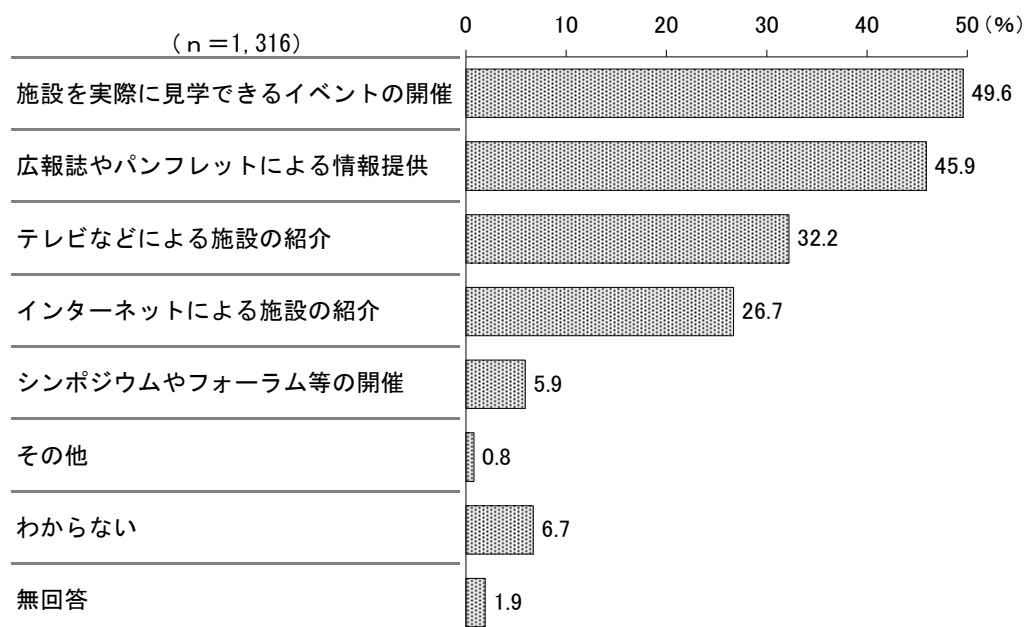
[n=1,316]



- ・全体で見ると、「資源のリサイクルに取り組んでいる」が59.5%と最も高く、次いで「環境汚染や健康被害のおそれがある」が33.9%、「公害防止対策がきちんとされている」が29.4%の順となっている。
- ・性別で見ると、「環境汚染や健康被害のおそれがある」では〈女性〉(37.3%)が〈男性〉(30.7%)より6.6ポイント、「地域の印象が悪くなる」では〈男性〉(18.7%)が〈女性〉(13.0%)より5.7ポイント、それぞれ高くなっている。
- ・性/年齢別で見ると、「資源のリサイクルに取り組んでいる」では〈男性60～64歳〉が76.1%、「環境汚染や健康被害のおそれがある」では〈女性30歳代〉が48.8%、「公害防止対策がきちんとされている」では〈女性70歳以上〉が40.5%と、それぞれ高くなっている。

(3) 産業廃棄物処理施設を知るために県に求めること

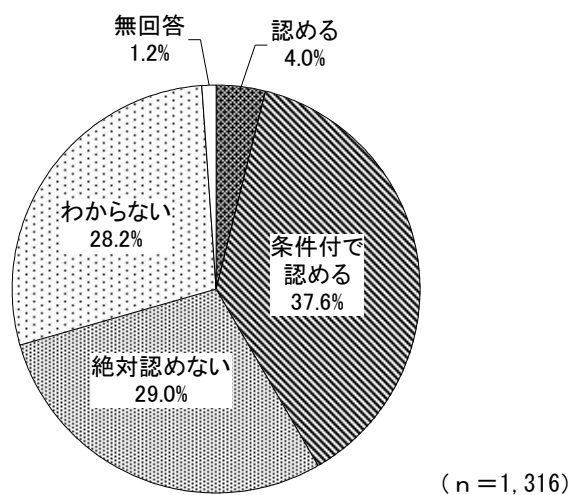
問22 あなたが、産業廃棄物処理施設を詳しく知りたいと思ったときに、県にどのようなことを求めますか。次の中から2つまで選んでください。 [n=1,316]



- ・全体で見ると、「施設を実際に見学できるイベントの開催」が49.6%と最も高く、次いで「広報誌やパンフレットによる情報提供」が45.9%、「テレビなどによる施設の紹介」が32.2%の順となっている。
- ・性別で見ると、「テレビなどによる施設の紹介」では〈女性〉(33.8%)が〈男性〉(30.0%)より3.8ポイント、「インターネットによる施設の紹介」では〈男性〉(29.1%)が〈女性〉(25.5%)より3.6ポイント、それぞれ高くなっている。
- ・性/年齢別で見ると、「広報誌やパンフレットによる情報提供」では〈男性65～69歳〉が65.4%、「テレビなどによる施設の紹介」では〈女性20歳代〉が42.9%、「インターネットによる施設の紹介」では〈女性30歳代〉が51.3%と、それぞれ高くなっている。

(4) 近隣の産業廃棄物処理施設についての考え

問23 もし、あなたの家の近くに産業廃棄物処理施設ができるとした場合、認めることができますか。次の中から1つ選んでください。 [n=1,316]



- ・全体で見ると、「条件付で認める」が37.6%と最も高く、次いで「絶対認めない」が29.0%、「わからない」が28.2%の順となっている。
- ・性別で見ると、「条件付で認める」では〈男性〉(44.8%)が〈女性〉(31.6%)より13.2ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別で見ると、「条件付で認める」では〈男性65～69歳〉が58.0%、「絶対認めない」では〈男性20歳代〉が39.1%、それぞれ高くなっている。

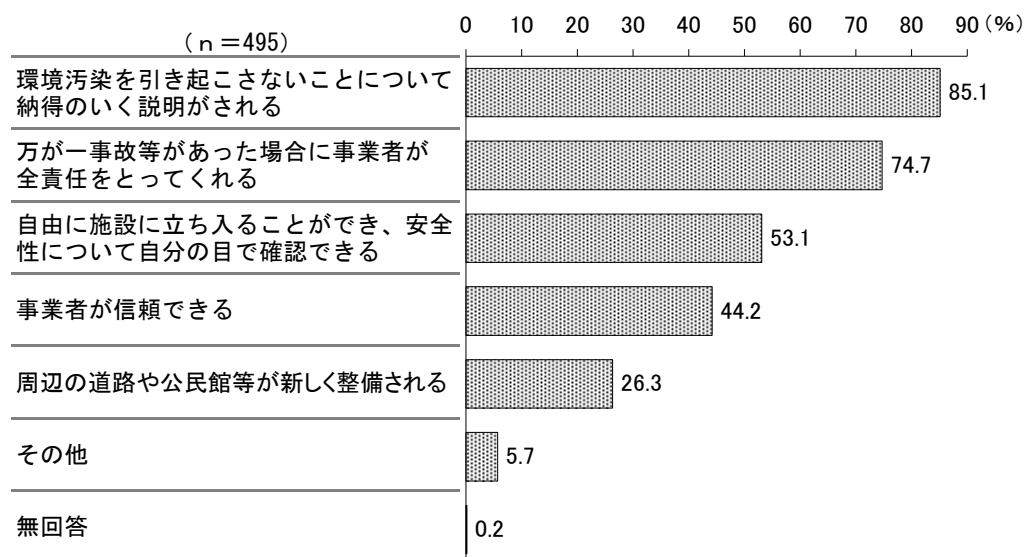
(4-1) 産業廃棄物処理施設を認める条件

(問23で選択肢「条件付で認める」を選んだ方のみお答えください)

問23-1 どのような条件がそろえば認めることができますか。

次の中からいくつでも選んでください。

[n=495]

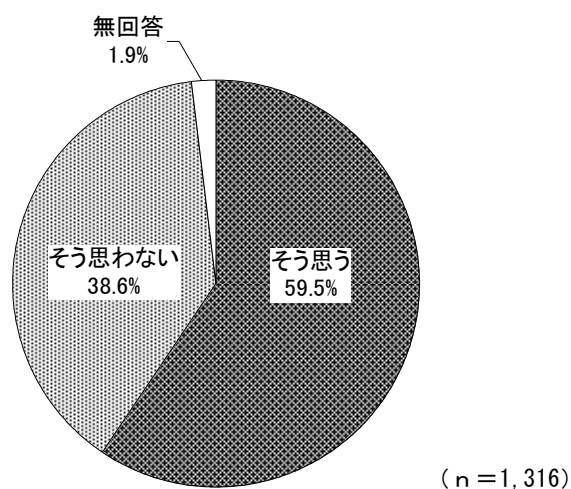


- ・全体で見ると、「環境汚染を引き起こさないことについて納得のいく説明がされる」が85.1%と最も高く、次いで「万が一事故等があった場合に事業者が全責任をとってくれる」が74.7%、「自由に施設に立ち入ることができ、安全性について自分の目で確認できる」が53.1%の順となっている。
- ・性別で見ると、「事業者が信頼できる」では〈女性〉(50.0%)が〈男性〉(39.9%)より10.1ポイント、「自由に施設に立ち入ることができ、安全性について自分の目で確認できる」では〈男性〉(56.0%)が〈女性〉(49.1%)より6.9ポイント、それぞれ高くなっている。
- ・性/年齢別で見ると、「自由に施設に立ち入ることができ、安全性について自分の目で確認できる」では〈男性60～64歳〉が66.7%、「事業者が信頼できる」では〈女性60～64歳〉が64.0%、「周辺の道路や公民館等が新しく整備される」では〈男性20歳代〉が52.9%と、それぞれ高くなっている。

7 在宅医療について

(1) 自宅療養への考え

問24 あなたが病気やけがで長期の療養が必要になり、通院が困難になった場合、自宅で療養したいと思いますか。次の中から1つ選んでください。 [n=1,316]



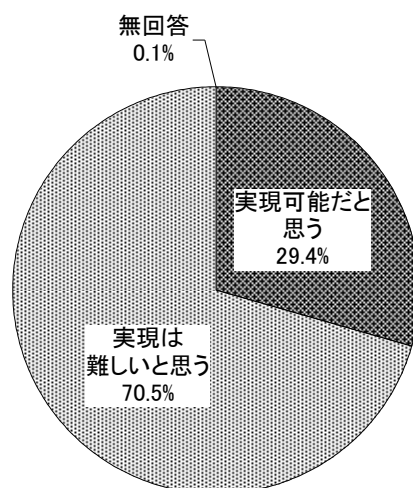
- ・全体でみると、「そう思う」(59.5%)は6割、「そう思わない」(38.6%)は4割近くとなっている。
- ・性別でみると、「そう思う」では〈男性〉(61.4%)が〈女性〉(58.0%)より3.4ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別でみると、「そう思う」では〈女性20歳代〉が69.8%と高くなっている。「そう思わない」では〈女性60～64歳〉が48.6%、〈女性50歳代〉が47.6%と高くなっている。

(1-1) 自宅療養実現に対する考え

(問24で選択肢「そう思う」を選んだ方のみお答えください)

問24-1 自宅での療養は実現可能だと思いますか。次の中から1つ選んでください。

[n = 783]



(n = 783)

- ・全体でみると、「実現可能だと思う」(29.4%)はほぼ3割、「実現は難しいと思う」(70.5%)はほぼ7割となっている。
- ・性別でみると、「実現可能だと思う」では〈男性〉(34.2%)が〈女性〉(24.4%)より9.8ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別でみると、「実現可能だと思う」では〈男性20歳代〉が46.7%と高くなっている。「実現は難しいと思う」では〈女性50歳代〉が81.8%、〈女性40歳代〉が80.6%と高くなっている。

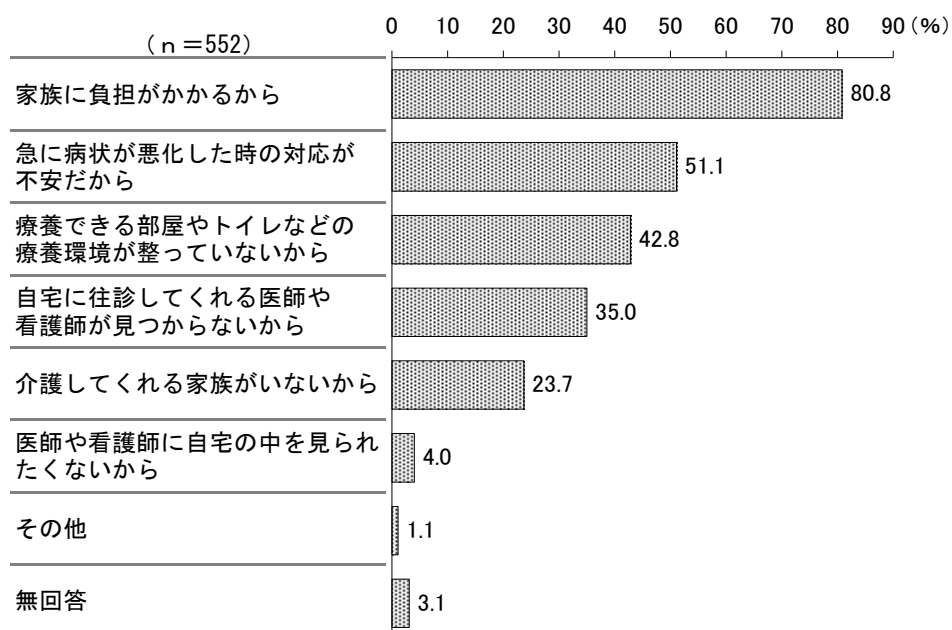
(1-1-1) 自宅療養が難しい理由

(問24-1で選択肢「実現は難しいと思う」を選んだ方のみお答えください)

問24-1-1 自宅での療養が難しいと思う理由は何ですか。

次の中から3つまで選んでください。

[n=552]



- ・全体でみると、「家族に負担がかかるから」(80.8%)がほぼ8割で最も高く、次いで「急に病状が悪化した時の対応が不安だから」(51.1%)、「療養できる部屋やトイレなどの療養環境が整っていないから」(42.8%)、「自宅に往診してくれる医師や看護師が見つからないから」(35.0%)、「介護してくれる家族がいないから」(23.7%)の順となっている。
- ・性別でみると、「家族に負担がかかるから」では〈女性〉(83.3%)が〈男性〉(78.4%)より4.9ポイント高くなっている。「急に病状が悪化した時の対応が不安だから」では〈男性〉(53.5%)が〈女性〉(49.0%)より4.5ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別でみると、「家族に負担がかかるから」では〈女性60～64歳〉が92.0%と高くなっている。「療養できる部屋やトイレなどの療養環境が整っていないから」では〈女性50歳代〉が57.4%と高くなっている。「自宅に往診してくれる医師や看護師が見つからないから」では〈女性60～64歳〉が56.0%と高くなっている。

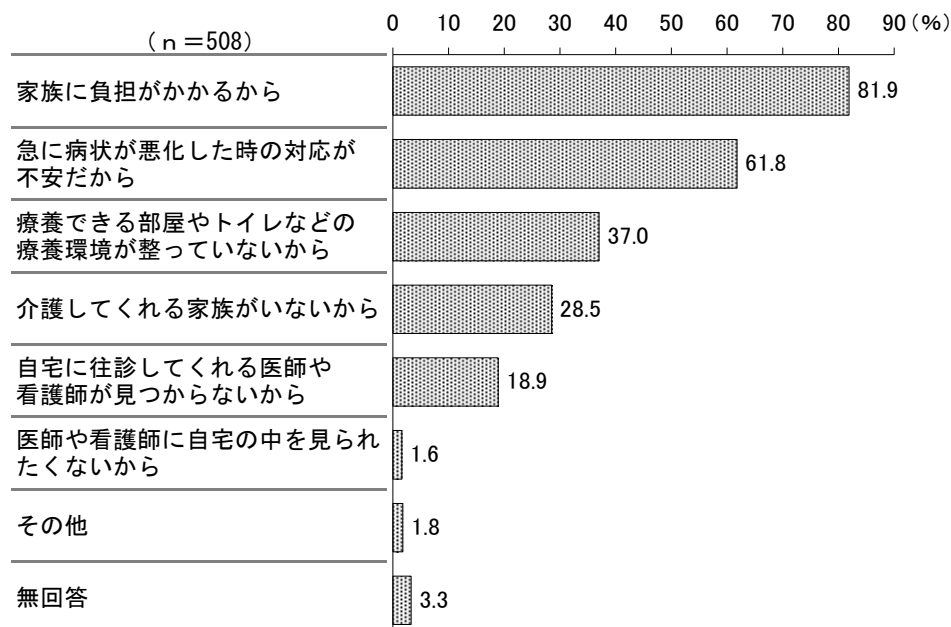
(1-2) 自宅療養を希望しない理由

(問24で選択肢「そう思わない」を選んだ方のみお答えください)

問24-2 自宅での療養を希望しない理由は何ですか。

次の中から3つまで選んでください。

[n=508]

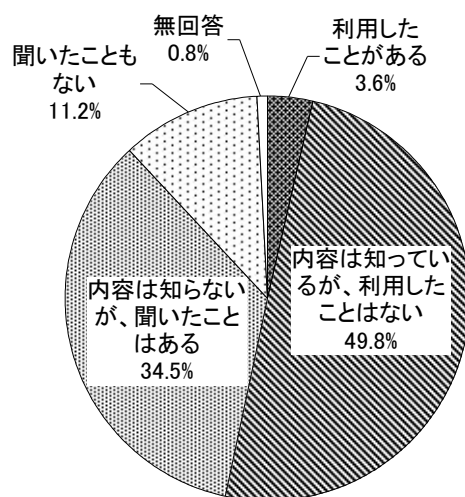


- ・全体で見ると、「家族に負担がかかるから」(81.9%)が8割を超えて最も高く、次いで「急に病状が悪化した時の対応が不安だから」(61.8%)、「療養できる部屋やトイレなどの療養環境が整っていないから」(37.0%)、「介護してくれる家族がないから」(28.5%)、「自宅に往診してくれる医師や看護師が見つからないから」(18.9%)の順となっている。
- ・性別で見ると、「介護してくれる家族がないから」では〈女性〉(33.9%)が〈男性〉(22.5%)より11.4ポイント高くなっている。「家族に負担がかかるから」では〈女性〉(83.6%)が〈男性〉(79.3%)より4.3ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別で見ると、「家族に負担がかかるから」では〈女性30歳代〉が96.0%、〈女性20歳代〉が94.4%と高くなっている。「介護してくれる家族がないから」では〈女性70歳以上〉が46.3%と高くなっている。「自宅に往診してくれる医師や看護師が見つからないから」では〈男性70歳以上〉が35.7%と高くなっている。

(2) 訪問診療サービスの認知度

問25 在宅医療を支える仕組みのひとつに「訪問診療(※)」がありますが、あなたはこのサービスを知っていますか。次の中から1つ選んでください。 [n=1,316]

※ 「訪問診療」とは、通院が困難な患者の自宅等を医師が定期的に訪問して行う医療サービスのことです。



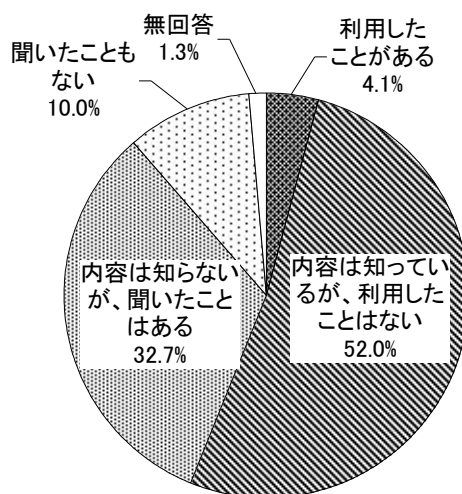
(n=1,316)

- ・全体でみると、「利用したことがある」(3.6%)と「内容を知っているが、利用したことはない」(49.8%)の2つを合わせた『内容を知っている』(53.4%)は5割を超えている。「内容は知らないが、聞いたことはある」(34.5%)は3割半ば、「聞いたこともない」(11.2%)は1割を超えている。
- ・性別でみると、『内容を知っている』では〈女性〉(56.8%)が〈男性〉(50.4%)より6.4ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別でみると、『内容を知っている』では〈女性20歳代〉が63.5%と高くなっている。

(3) 訪問看護サービスの認知度

問26 在宅医療を支える仕組みのひとつに「訪問看護(※)」がありますが、あなたはこのサービスを知っていますか。次の中から1つ選んでください。 [n=1,316]

※ 「訪問看護」とは、看護師が医師の指示を受け、患者の自宅等を訪問して行う看護サービスのことです。



(n=1,316)

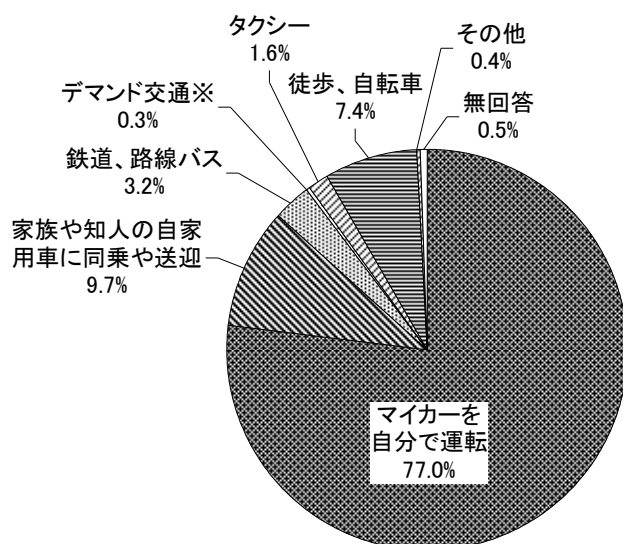
- ・全体で見ると、「利用したことがある」(4.1%)と「内容は知っているが、利用したことはない」(52.0%)の2つを合わせた『内容を知っている』(56.1%)は5割半ばとなっている。「内容は知らないが、聞いたことはある」(32.7%)は3割を超え、「聞いたこともない」(10.0%)は1割となっている。
- ・性別で見ると、『内容を知っている』では〈女性〉(60.3%)が〈男性〉(51.5%)より8.8ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別で見ると、『内容を知っている』では〈女性20歳代〉が63.5%、〈女性50歳代〉が63.4%と高くなっている。

8 地域の移動手段について

(1) 日常生活における交通手段

問27 あなたは日常生活において、どのような交通手段を利用していますか。次の中から1つ選んでください。(複数ある場合は最も利用回数が多いものを選んでください。)

[n=1,316]



(n=1,316)

※ デマンド交通とは、地域の移動手段として市町村が運行している予約型の公共交通のことです。

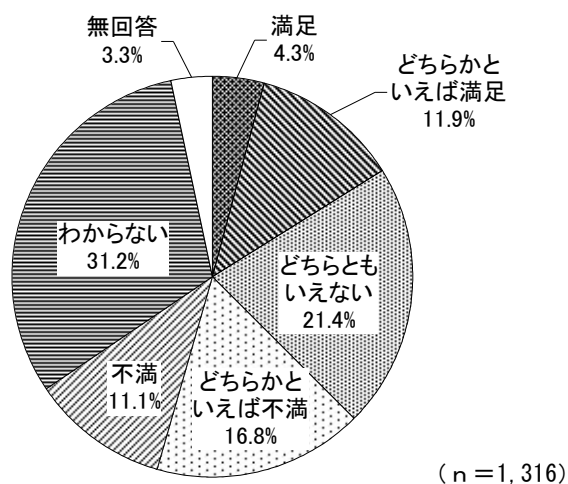
- ・全体で見ると、「マイカーを自分で運転」(77.0%)が8割近くで最も高く、次いで「家族や知人の自家用車に同乗や送迎」(9.7%)、「徒歩、自転車」(7.4%)、「鉄道、路線バス」(3.2%)の順となっている。
- ・性別で見ると、「マイカーを自分で運転」では〈男性〉(83.6%)が〈女性〉(71.5%)より12.1ポイント高くなっている。「家族や知人の自家用車に同乗や送迎」では〈女性〉(13.6%)が〈男性〉(5.3%)より8.3ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別で見ると、「マイカーを自分で運転」では〈女性40歳代〉が94.9%、〈男性60～64歳〉が90.9%、〈男性65～69歳〉が90.1%と高くなっている。「家族や知人の自家用車に同乗や送迎」では〈女性70歳以上〉が40.5%と高くなっている。「徒歩、自転車」では〈男性20歳代〉が17.4%と高くなっている。

(2) 路線バスの満足度

問28 路線バスについて、あなたはどの程度満足していますか。

次の中から1つ選んでください。

[n = 1,316]



- ・全体で見ると、「満足」(4.3%)と「どちらかといえば満足」(11.9%)の2つを合わせた『満足』(16.2%)は1割半ばとなっている。一方、「どちらかといえば不満」(16.8%)と「不満」(11.1%)の2つを合わせた『不満』(27.9%)は3割近くとなっている。
- ・性別で見ると、『満足』では〈男性〉(19.4%)が〈女性〉(13.9%)より5.5ポイント高くなっている。『不満』では〈女性〉(30.2%)が〈男性〉(25.3%)より4.9ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別で見ると、『満足』では〈男性70歳以上〉が26.4%、〈男性60～64歳〉が25.0%と高くなっている。『不満』では〈女性40歳代〉が43.4%と高くなっている。

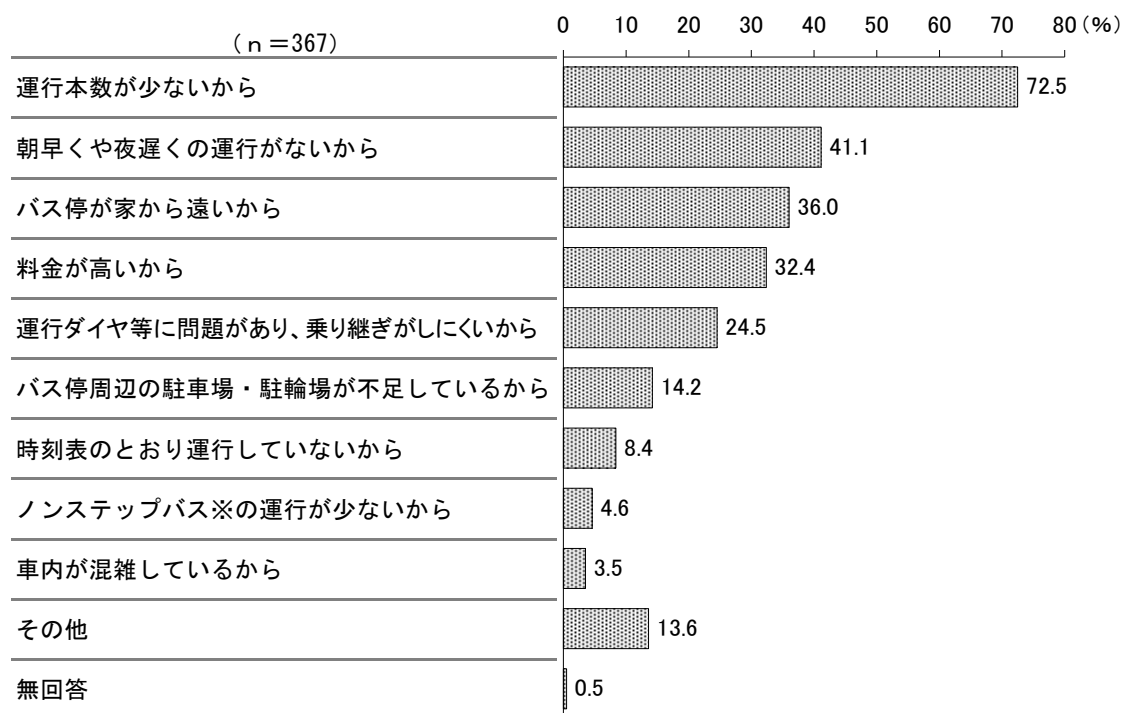
(2-1) 路線バスについて不満に思う理由

(問28で選択肢「どちらかといえば不満」、「不満」を選んだ方のみお答えください)

問28-1 路線バスについて不満に思う理由は何ですか。

次の中からいくつでも選んでください。

[n=367]



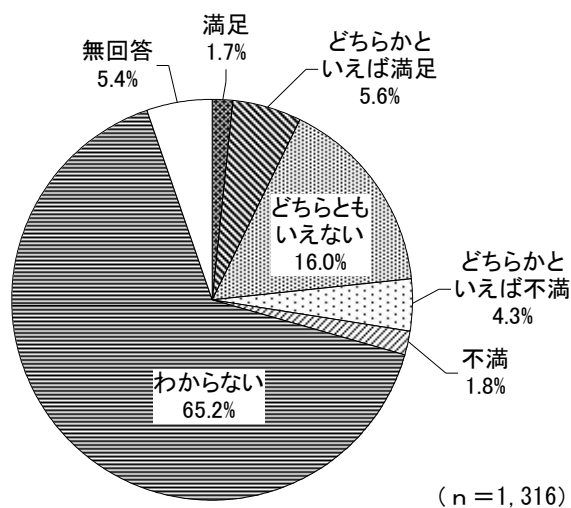
※ ノンステップバスとは、バスの床面を低くして乗降ステップをなくした、バリアフリー化されたバスのことです。

- ・全体で見ると、「運行本数が少ないから」(72.5%)が7割を超えて最も高く、次いで「朝早くや夜遅くの運行がないから」(41.1%)、「バス停が家から遠いから」(36.0%)、「料金が安いから」(32.4%)、「運行ダイヤ等に問題があり、乗り継ぎがしにくいから」(24.5%)の順となっている。
- ・性別で見ると、「料金が安いから」では〈女性〉(37.4%)が〈男性〉(26.6%)より10.8ポイント高くなっている。「朝早くや夜遅くの運行がないから」では〈男性〉(45.5%)が〈女性〉(37.4%)より8.1ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別で見ると、「朝早くや夜遅くの運行がないから」では〈男性30歳代〉が70.0%と高くなっている。「料金が安いから」では〈女性50歳代〉が52.8%と高くなっている。

(3) デマンド交通の満足度

問29 デマンド交通について、あなたはどの程度満足していますか。
次の中から1つ選んでください。

[n=1,316]



- ・全体で見ると、「満足」(1.7%)と「どちらかといえば満足」(5.6%)の2つを合わせた『満足』(7.3%)と、「どちらかといえば不満」(4.3%)と「不満」(1.8%)の2つを合わせた『不満』(6.1%)はともに1割に満たない。「どちらともいえない」(16.0%)は1割半ば、「わからない」(65.2%)は6割半ばとなっている。
- ・性別で見ると、『満足』では〈男性〉(9.5%)が〈女性〉(5.5%)より4.0ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別で見ると、『満足』では〈男性70歳以上〉が16.8%、〈男性65～69歳〉が14.8%と高くなっている。

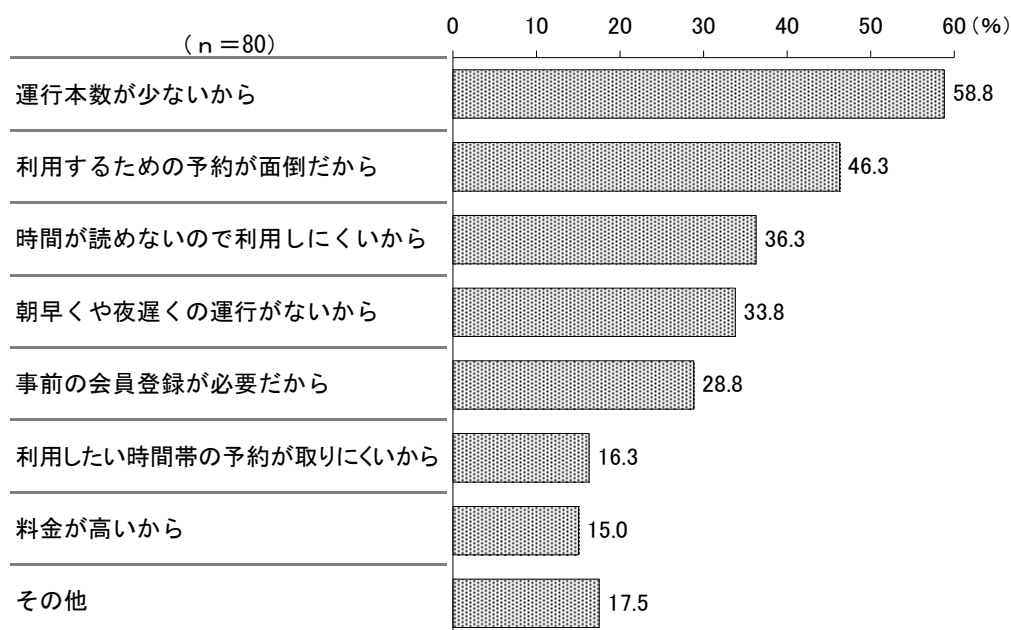
(3-1) デマンド交通について不満に思う理由

(問29で選択肢「どちらかといえば不満」、「不満」を選んだ方のみお答えください)

問29-1 デマンド交通について不満に思う理由は何ですか。

次の中からいくつでも選んでください。

[n=80]



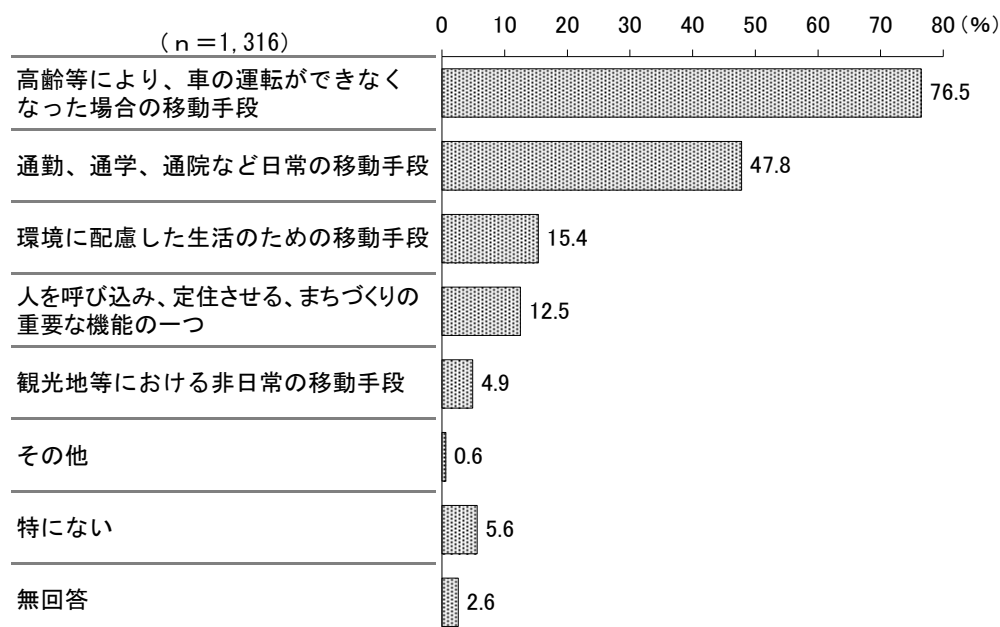
- ・全体で見ると、「運行本数が少ないから」(58.8%)が6割近くで最も高く、次いで「利用するための予約が面倒だから」(46.3%)、「時間が読めないので利用しにくいから」(36.3%)、「朝早くや夜遅くの運行がないから」(33.8%)、「事前の会員登録が必要だから」(28.8%)の順となっている。
- ・性別で見ると、「運行本数が少ないから」では〈女性〉(66.7%)が〈男性〉(50.0%)より16.7ポイント高くなっている。「事前の会員登録が必要だから」では〈女性〉(33.3%)が〈男性〉(19.4%)より13.9ポイント高くなっている。「利用するための予約が面倒だから」では〈女性〉(52.4%)が〈男性〉(38.9%)より13.5ポイント高くなっている。

(4) 地域の公共交通に期待すること

問30 本県の今後の地域の公共交通に対し、あなたが期待することは何ですか。

次の中から2つまで選んでください。

[n = 1,316]



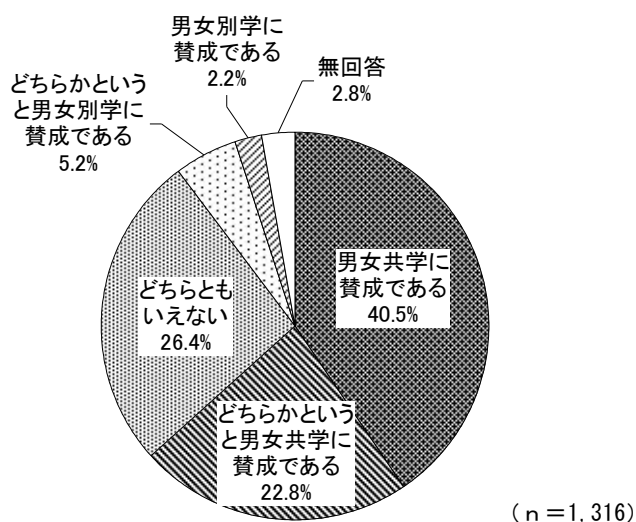
- ・全体で見ると、「高齢等により、車の運転ができなくなった場合の移動手段」(76.5%)が8割近くで最も高く、次いで「通勤、通学、通院など日常の移動手段」(47.8%)、「環境に配慮した生活のための移動手段」(15.4%)、「人を呼び込み、定住させる、まちづくりの重要な機能の一つ」(12.5%)の順となっている。
- ・性別で見ると、「人を呼び込み、定住させる、まちづくりの重要な機能の一つ」では〈男性〉(14.9%)が〈女性〉(10.4%)より4.5ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別で見ると、「高齢等により、車の運転ができなくなった場合の移動手段」では〈女性50歳代〉が90.5%と高くなっている。「通勤、通学、通院など日常の移動手段」では〈女性20歳代〉が63.5%と高くなっている。

9 県立高校の男女共学・別学について

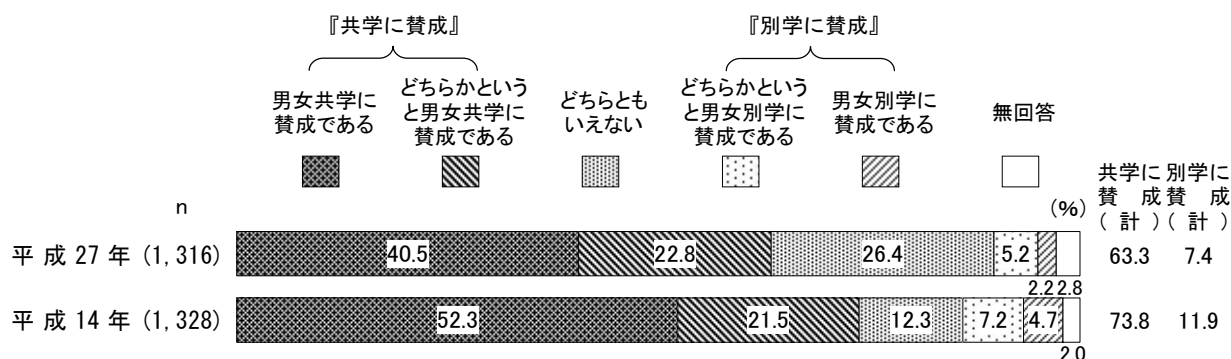
(1) 男女共学と男女別学に対する考え

問31 男女共学と男女別学のどちらの考え方に賛成ですか。次の中から1つ選んでください。

[n = 1,316]



- ・全体でみると、「男女共学に賛成である」(40.5%)と「どちらかというとも男女共学に賛成である」(22.8%)の2つを合わせた『共学に賛成』(63.3%)は6割を超えている。一方、「どちらかというとも男女別学に賛成である」(5.2%)と「男女別学に賛成である」(2.2%)の2つを合わせた『別学に賛成』は7.4%となっている。
- ・性別でみると、『共学に賛成』では〈男性〉(65.1%)が〈女性〉(62.2%)より2.9ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別でみると、『共学に賛成』では〈男性50歳代〉が75.2%、〈女性30歳代〉が75.0%と高くなっている。



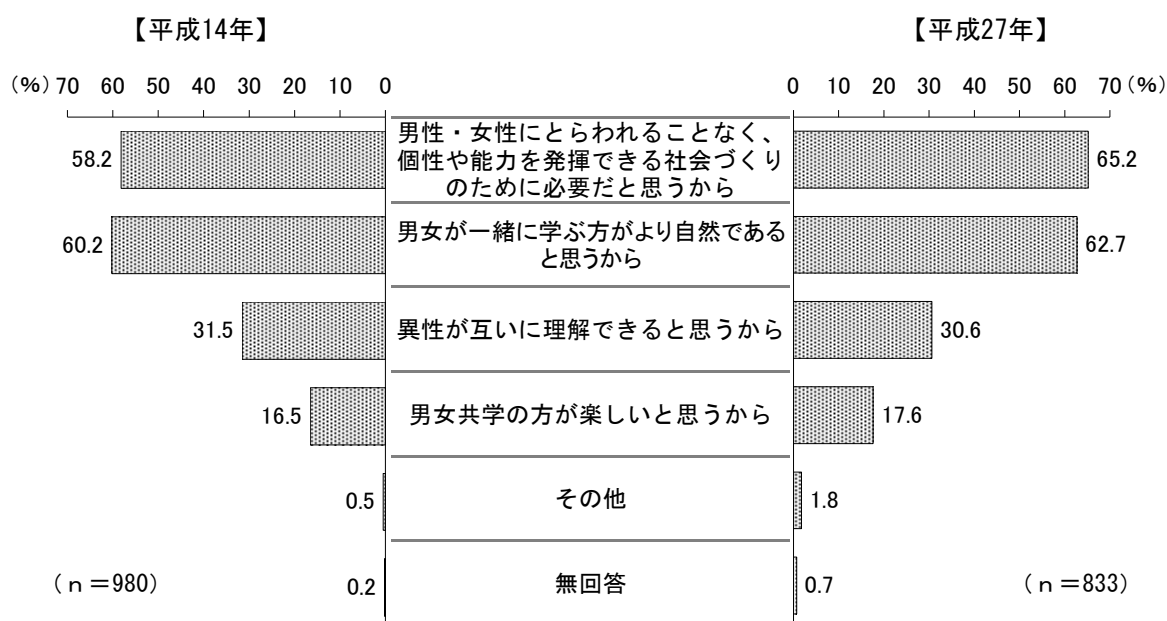
- ・平成14年の調査結果と比較すると、『共学に賛成』が10.5ポイント減少している。

(2) 男女共学に賛成する理由

(問31で選択肢「男女共学に賛成である」、「どちらかというとな男女共学に賛成である」を選んだ方のみお答えください)

問31-1 共学に賛成する主な理由は何ですか。次の中から2つまで選んでください。

[n = 833]



※平成14年では「異性が互いに理解できると思うから」は「男性と女性の特性が理解できると思うから」としていた。

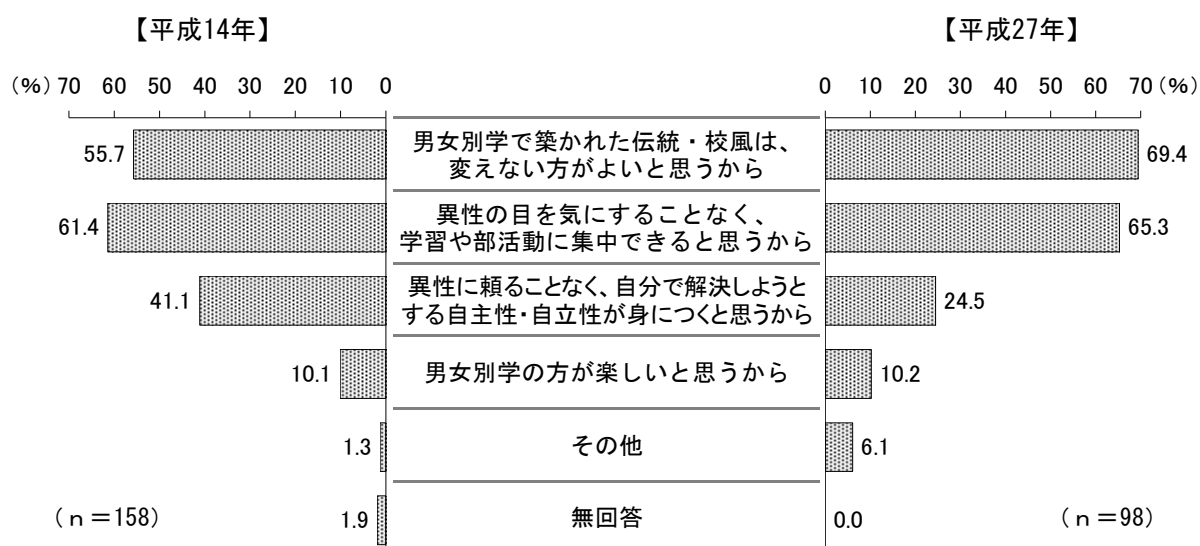
- ・全体で見ると、「男性・女性にとらわれることなく、個性や能力を発揮できる社会づくりのために必要だと思うから」(65.2%)が6割半ばで最も高く、次いで「男女と一緒に学ぶ方がより自然であると思うから」(62.7%)、「異性が互いに理解できると思うから」(30.6%)、「男女共学の方が楽しいと思うから」(17.6%)の順となっている。
- ・性別で見ると、「男性・女性にとらわれることなく、個性や能力を発揮できる社会づくりのために必要だと思うから」では〈女性〉(73.4%)が〈男性〉(56.9%)より16.5ポイント高くなっている。「男女共学の方が楽しいと思うから」では〈男性〉(21.2%)が〈女性〉(14.1%)より7.1ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別で見ると、「男性・女性にとらわれることなく、個性や能力を発揮できる社会づくりのために必要だと思うから」では〈女性60～64歳〉が81.6%、〈女性40歳代〉が80.3%と高くなっている。「男女と一緒に学ぶ方がより自然であると思うから」では〈女性65～69歳〉が75.6%、〈女性70歳以上〉が73.4%と高くなっている。「男女共学の方が楽しいと思うから」では〈男性20歳代〉が54.5%、〈女性20歳代〉が43.6%と高くなっている。
- ・平成14年の調査結果と比較すると、「男性・女性にとらわれることなく、個性や能力を発揮できる社会づくりのために必要だと思うから」が7.0ポイント増加している。

(3) 男女別学に賛成する理由

(問31で選択肢「どちらかというとな男女別学に賛成である」、「男女別学に賛成である」を選んだ方のみお答えください)

問31-2 別学に賛成する主な理由は何ですか。次の中から2つまで選んでください。

[n=98]



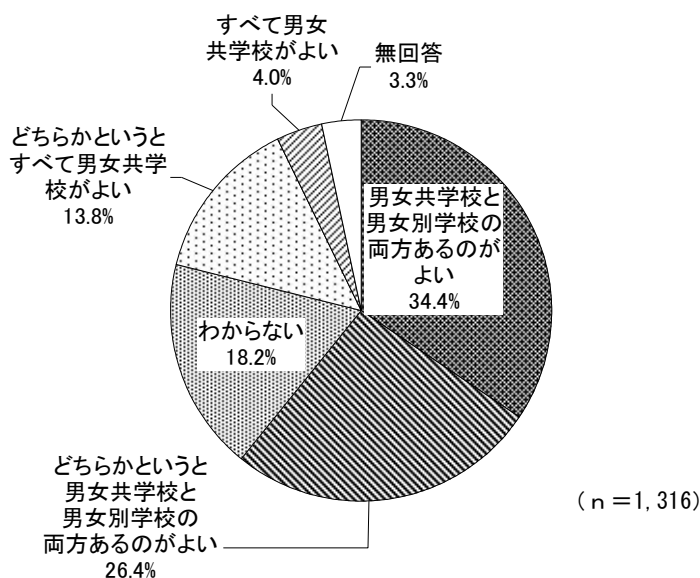
※平成14年では「異性に頼ることなく、自分で解決しようとする自主性・自立性が身につくと思うから」は「異性に頼ることなく、何事も自分で解決しようとする自主性・自立性が身につく、個々の能力を發揮できるようになると思うから」としていた。

※平成14年では「男女別学で築かれた伝統・校風は、変えない方がよいと思うから」は「男女別学で築かれた伝統・校風にはそれぞれ魅力があり、変えない方がよいと思うから」としていた。

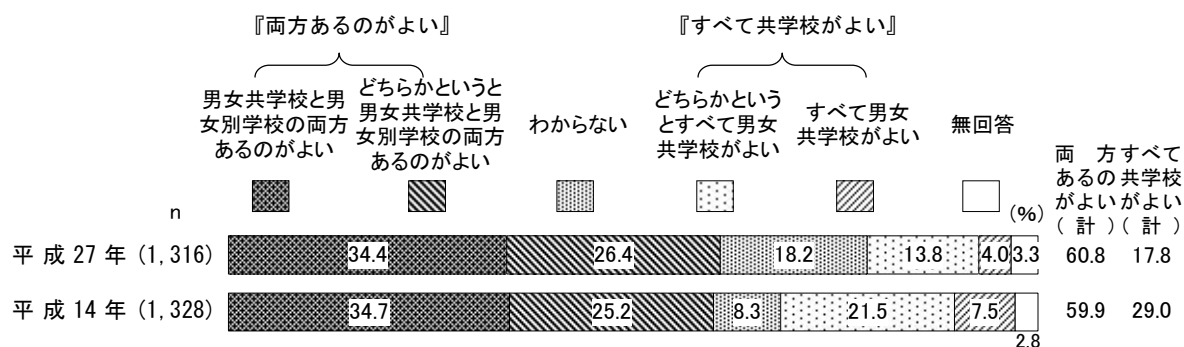
- ・全体で見ると、「男女別学で築かれた伝統・校風は、変えない方がよいと思うから」(69.4%)がほぼ7割で最も高く、次いで「異性の目を気にすることなく、学習や部活動に集中できると思うから」(65.3%)、「異性に頼ることなく、自分で解決しようとする自主性・自立性が身につくと思うから」(24.5%)、「男女別学の方が楽しいと思うから」(10.2%)の順となっている。
- ・性別で見ると、「男女別学で築かれた伝統・校風は、変えない方がよいと思うから」では〈女性〉(77.1%)が〈男性〉(62.5%)より14.6ポイント高くなっている。
- ・平成14年の調査結果と比較すると、「異性に頼ることなく、自分で解決しようとする自主性・自立性が身につくと思うから」が16.6ポイント減少している。一方、「男女別学で築かれた伝統・校風は、変えない方がよいと思うから」が13.7ポイント増加している。

(4) 県立高校の今後のあり方に対する考え

問32 現在、栃木県内には共学校48校、男子校5校、女子校6校の全日制県立高校がありますが、本県の県立高校の今後のあり方についてどのように考えますか。次の中から1つ選んでください。 [n=1,316]



- ・全体でみると、「男女共学校と男女別学校の両方あるのがよい」(34.4%)と「どちらかというと男女共学校と男女別学校の両方あるのがよい」(26.4%)の2つを合わせた『両方あるのがよい』(60.8%)はほぼ6割となっている。一方、「どちらかというとすべて男女共学校がよい」(13.8%)と「すべて男女共学校がよい」(4.0%)の2つを合わせた『すべて共学校がよい』(17.8%)は2割近くとなっている。
- ・性別でみると、『すべて共学校がよい』では〈男性〉(20.5%)が〈女性〉(15.1%)より5.4ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別でみると、『両方あるのがよい』では〈女性20歳代〉が79.4%、〈女性30歳代〉が76.3%と高くなっている。『すべて共学校がよい』では〈女性70歳以上〉が25.0%、〈男性50歳代〉が24.8%と高くなっている。



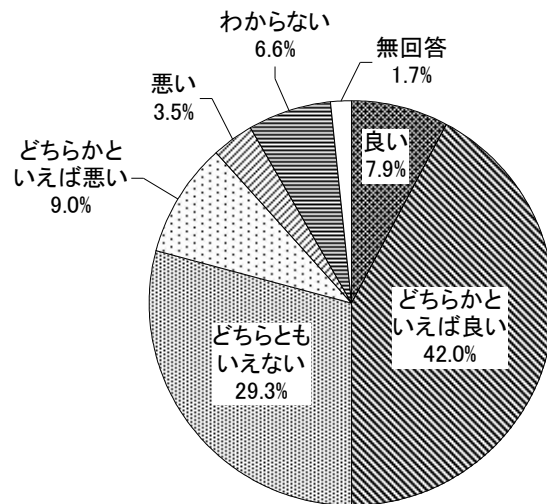
- ・平成14年の調査結果と比較すると、『すべて共学校がよい』が11.2ポイント減少している。

10 犯罪と治安対策について

(1) 県内の治安状況

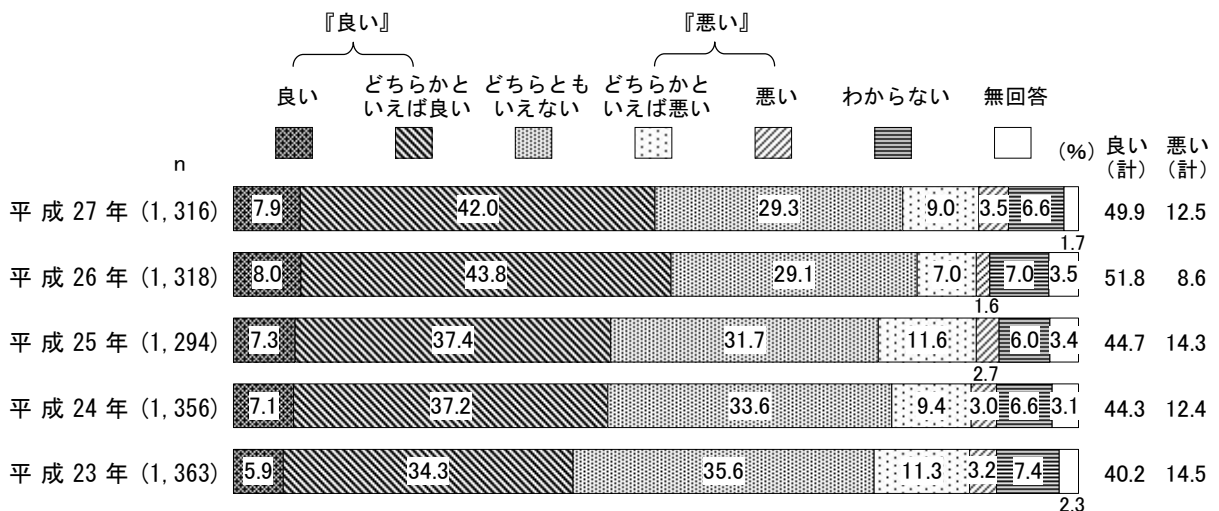
問33 あなたは、県内の治安についてどう感じますか。次の中から1つ選んでください。

[n=1,316]



(n=1,316)

- ・全体でみると、「良い」(7.9%)と「どちらかといえば良い」(42.0%)の2つを合わせた『良い』(49.9%)は5割となっている。一方、「どちらかといえば悪い」(9.0%)と「悪い」(3.5%)の2つを合わせた『悪い』(12.5%)は1割を超えている。また、「どちらともいえない」(29.3%)はほぼ3割となっている。
- ・性別でみると、『良い』では〈男性〉(55.2%)が〈女性〉(46.3%)より8.9ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別でみると、『良い』では〈男性65~69歳〉が66.7%と高くなっている。『悪い』では〈女性40歳代〉が23.2%、〈女性30歳代〉が22.6%と高くなっている。

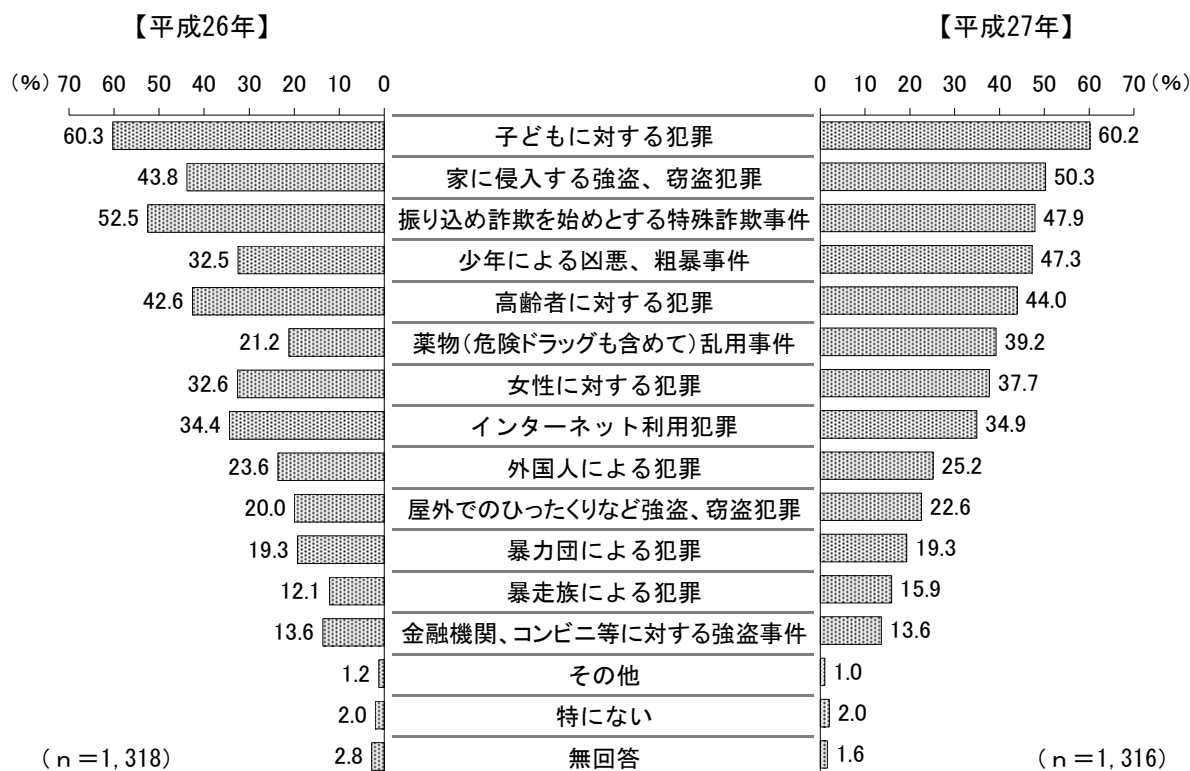


- ・過去の調査結果と比較すると、『良い』は平成25年以前と比べて高い割合となっている。

(2) 不安を感じる犯罪

問34 あなたは、どのような犯罪に不安を感じますか。次の中からいくつでも選んでください。

[n = 1,316]



- ・全体で見ると、「子どもに対する犯罪」(60.2%)が6割で最も高く、次いで「家に侵入する強盗、窃盗犯罪」(50.3%)、「振り込め詐欺を始めとする特殊詐欺事件」(47.9%)、「少年による凶悪、粗暴事件」(47.3%)、「高齢者に対する犯罪」(44.0%)の順となっている。
- ・性別で見ると、「女性に対する犯罪」では〈女性〉(43.7%)が〈男性〉(31.7%)より12.0ポイント高くなっている。「子どもに対する犯罪」では〈女性〉(64.8%)が〈男性〉(55.3%)より9.5ポイント高くなっている。「外国人による犯罪」では〈男性〉(28.9%)が〈女性〉(22.2%)より6.7ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別で見ると、「子どもに対する犯罪」では〈女性40歳代〉が83.8%、〈女性30歳代〉が81.3%と高くなっている。「振り込め詐欺を始めとする特殊詐欺事件」では〈女性70歳以上〉が66.9%と高くなっている。「少年による凶悪、粗暴事件」では〈男性20歳代〉が63.0%、〈男性60～64歳〉が61.4%と高くなっている。「インターネット利用犯罪」では〈男性20歳代〉が60.9%と高くなっている。
- ・前回(平成26年)の調査結果と比較すると、「薬物(危険ドラッグも含めて)乱用事件」が18.0ポイント、「少年による凶悪、粗暴事件」が14.8ポイント、「家に侵入する強盗、窃盗犯罪」が6.5ポイント、「女性に対する犯罪」が5.1ポイント、それぞれ増加している。

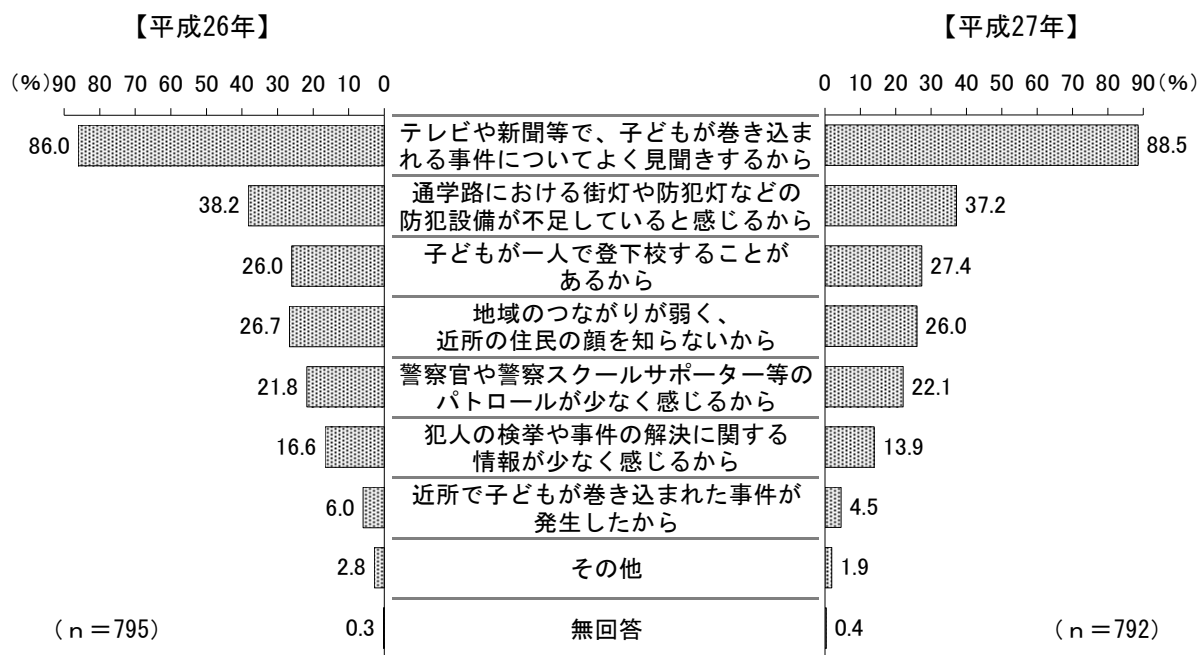
(2-1) 子どもに対する犯罪に不安を感じる理由

(問34で選択肢「子どもに対する犯罪」を選んだ方のみお答えください)

問34-1 あなたが、子どもに対する犯罪に不安を感じる理由は何ですか。

次の中からいくつでも選んでください。

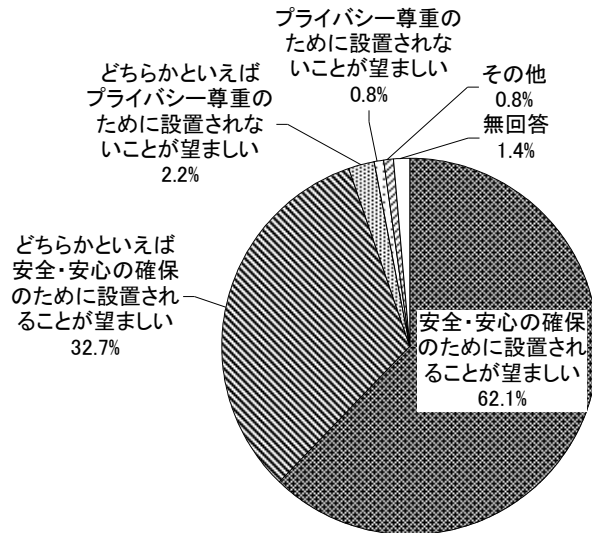
[n = 792]



- ・全体で見ると、「テレビや新聞等で、子どもが巻き込まれる事件についてよく見聞きするから」(88.5%)が9割近くで最も高く、次いで「通学路における街灯や防犯灯などの防犯設備が不足していると感じるから」(37.2%)、「子どもが一人で登下校することがあるから」(27.4%)、「地域のつながりが弱く、近所の住民の顔を知らないから」(26.0%)の順となっている。
- ・性別で見ると、「子どもが一人で登下校することがあるから」では〈女性〉(30.1%)が〈男性〉(23.7%)より6.4ポイント高くなっている。「地域のつながりが弱く、近所の住民の顔を知らないから」では〈男性〉(28.8%)が〈女性〉(23.7%)より5.1ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別で見ると、「通学路における街灯や防犯灯などの防犯設備が不足していると感じるから」では〈男性30歳代〉が54.3%、〈男性20歳代〉が53.6%と高くなっている。「子どもが一人で登下校することがあるから」では〈女性40歳代〉が37.3%と高くなっている。「地域のつながりが弱く、近所の住民の顔を知らないから」では〈男性70歳以上〉が42.9%、〈男性65～69歳〉が41.0%と高くなっている。
- ・前回(平成26年)の調査結果と比較すると、「犯人の検挙や事件の解決に関する情報が少なく感じるから」が2.7ポイント減少している。一方、「テレビや新聞等で、子どもが巻き込まれる事件についてよく見聞きするから」が2.5ポイント増加している。

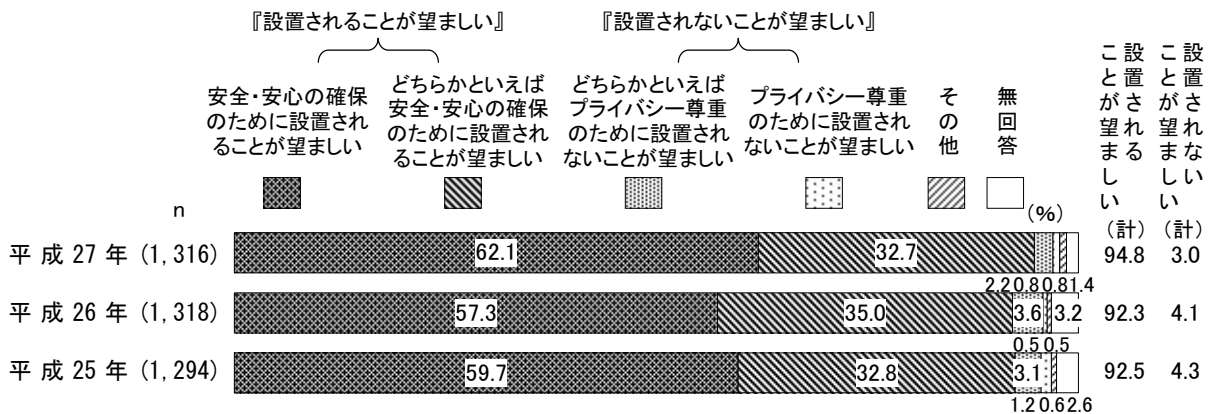
(3) 公共空間における防犯カメラの設置について

問35 あなたは、公共空間における防犯カメラの設置についてどのように思いますか。
次の中から1つ選んでください。 [n = 1,316]



(n=1,316)

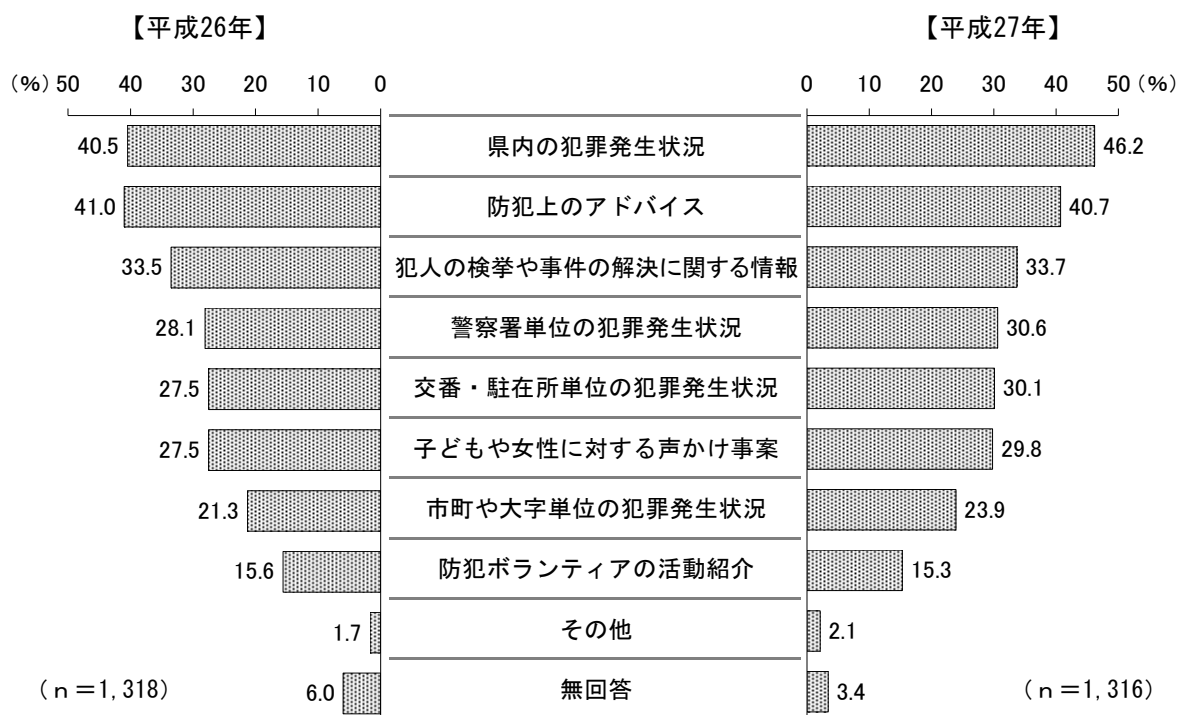
- ・全体で見ると、「安全・安心の確保のために設置されることが望ましい」(62.1%)と「どちらかといえば安全・安心の確保のために設置されることが望ましい」(32.7%)の2つを合わせた『設置されることが望ましい』(94.8%)は9割半ばとなっている。一方、「どちらかといえばプライバシー尊重のために設置されることが望ましい」(2.2%)と「プライバシー尊重のために設置されることが望ましい」(0.8%)の2つを合わせた『設置されることが望まない』(3.0%)は1割に満たない。
- ・性別で見ると、大きな傾向の違いはみられない。
- ・性/年齢別で見ると、『設置されることが望ましい』はすべての年代で9割台と高くなっている。



- ・過去の調査結果と比較すると、「安全・安心の確保のために設置されることが望ましい」が前回(平成26年)より4.8ポイント増加している。

(4) 犯罪の発生や防犯に関する情報で知りたいこと

問36 犯罪の発生や防犯に関して、あなたは、警察からどのような内容の情報提供を望みますか。次の中からいくつでも選んでください。 [n = 1,316]



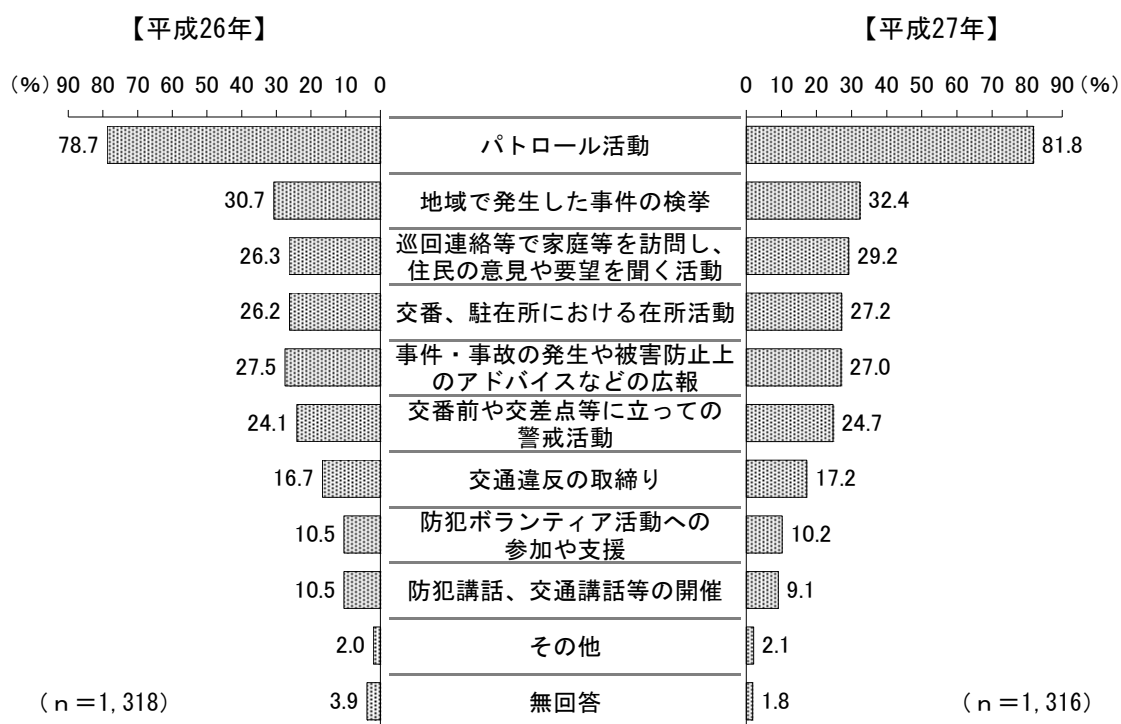
- ・全体で見ると、「県内の犯罪発生状況」（46.2%）が4割半ばで最も高く、次いで「防犯上のアドバイス」（40.7%）、「犯人の検挙や事件の解決に関する情報」（33.7%）、「警察署単位の犯罪発生状況」（30.6%）、「交番・駐在所単位の犯罪発生状況」（30.1%）、「子どもや女性に対する声かけ事案」（29.8%）の順となっている。
- ・性別で見ると、「子どもや女性に対する声かけ事案」では〈女性〉（34.9%）が〈男性〉（24.6%）より10.3ポイント高くなっている。「犯人の検挙や事件の解決に関する情報」では〈男性〉（37.8%）が〈女性〉（30.4%）より7.4ポイント高くなっている。「警察署単位の犯罪発生状況」では〈男性〉（34.2%）が〈女性〉（27.9%）より6.3ポイント高くなっている。
- ・性／年齢別で見ると、「県内の犯罪発生状況」では〈男性30歳代〉が56.5%と高くなっている。「防犯上のアドバイス」では〈女性20歳代〉が57.1%と高くなっている。「子どもや女性に対する声かけ事案」では〈女性30歳代〉が43.8%と高くなっている。
- ・前回（平成26年）の調査結果と比較すると、「県内の犯罪発生状況」が5.7ポイント増加している。

(5) 交番や駐在所の警察官に特に力を入れてほしい活動

問37 あなたが、交番や駐在所の警察官に特に力を入れてほしい活動は何ですか。

次の中からいくつでも選んでください。

[n = 1,316]

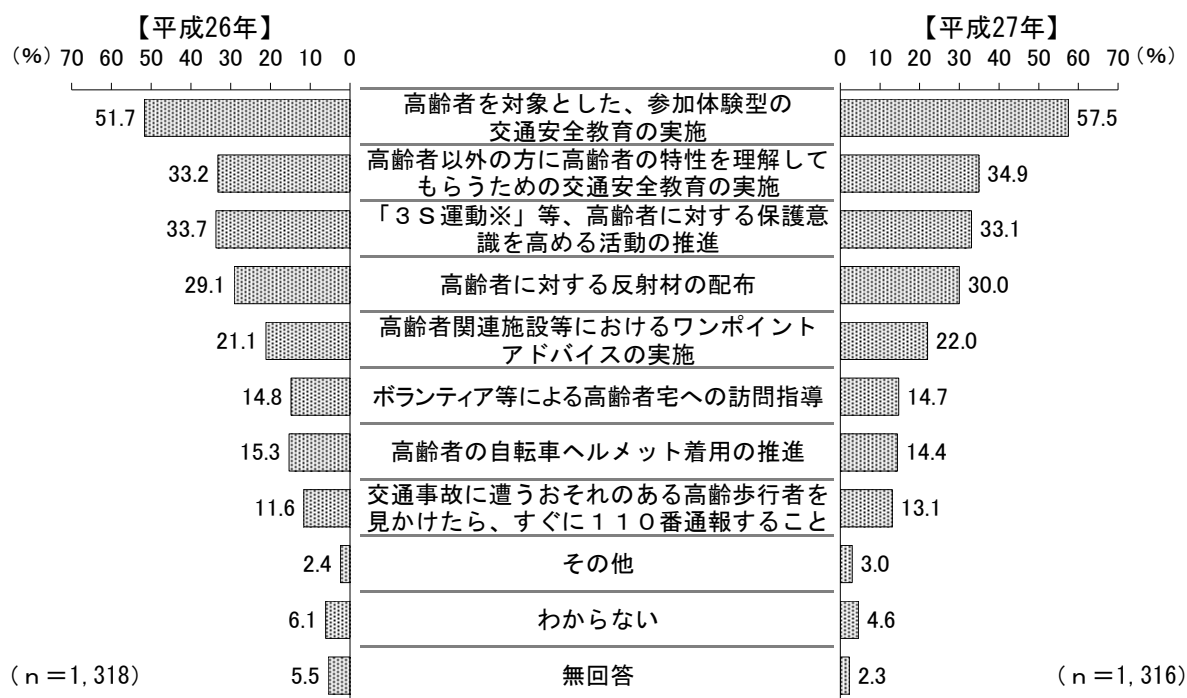


- ・全体で見ると、「パトロール活動」(81.8%)が8割を超えて最も高く、次いで「地域で発生した事件の検挙」(32.4%)、「巡回連絡等で家庭等を訪問し、住民の意見や要望を聞く活動」(29.2%)、「交番、駐在所における在所活動」(27.2%)、「事件・事故の発生や被害防止上のアドバイスなどの広報」(27.0%)、「交番前や交差点等に立っての警戒活動」(24.7%)の順となっている。
- ・性別で見ると、「巡回連絡等で家庭等を訪問し、住民の意見や要望を聞く活動」では〈男性〉(32.7%)が〈女性〉(26.1%)より6.6ポイント高くなっている。「交番前や交差点等に立っての警戒活動」では〈女性〉(26.8%)が〈男性〉(23.0%)より3.8ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別で見ると、「地域で発生した事件の検挙」では〈男性30歳代〉が50.7%と高くなっている。「巡回連絡等で家庭等を訪問し、住民の意見や要望を聞く活動」では〈男性65～69歳〉が45.7%と高くなっている。「交通違反の取締り」では〈男性20歳代〉が37.0%と高くなっている。
- ・前回(平成26年)の調査結果と比較すると、「パトロール活動」が3.1ポイント、「巡回連絡等で家庭等を訪問し、住民の意見や要望を聞く活動」が2.9ポイント、それぞれ増加している。

(6) 高齢者の交通事故防止のために必要な対策

問38 全交通事故死者の約4割を高齢者が占めていますが、高齢者の事故を防止するため、あなたは何が必要だと思えますか。次の中から3つまで選んでください。

[n=1,316]



※ 3S(スリーエス)とは、SEE(見る)、SLOW(減速する)、STOP(止まる)の頭文字をとったものです。

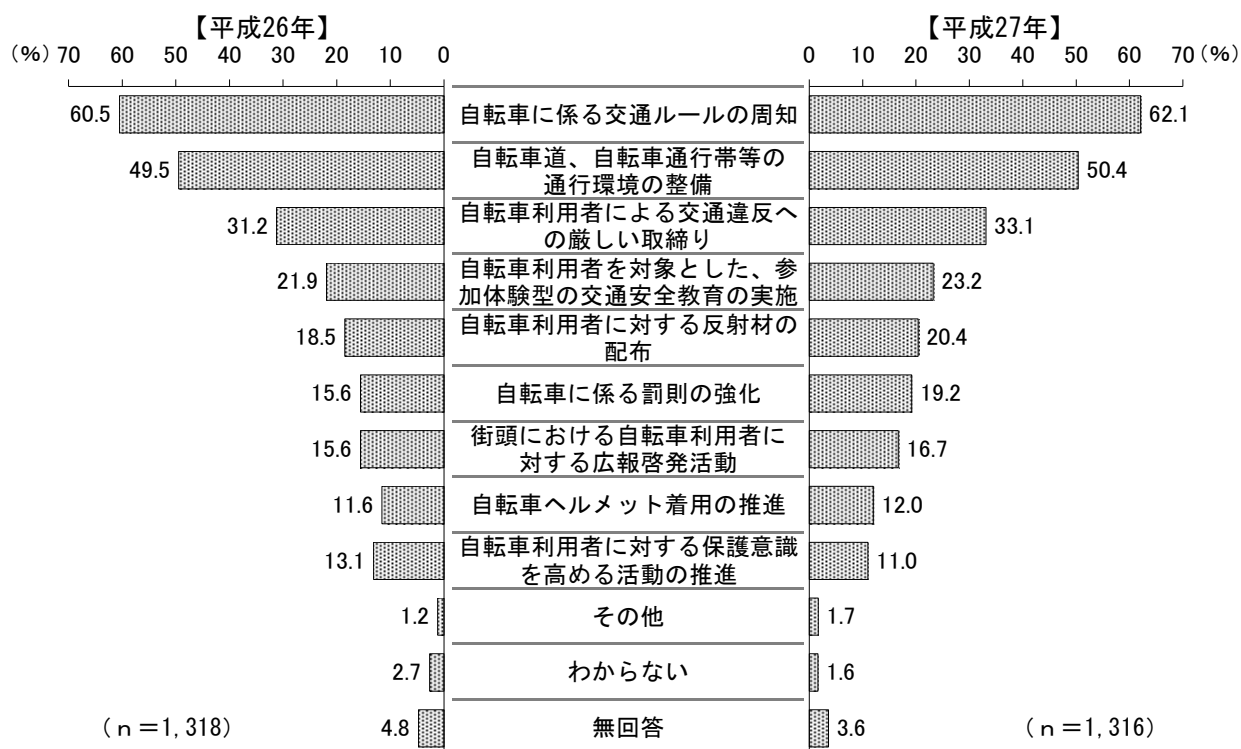
- ・全体で見ると、「高齢者を対象とした、参加体験型の交通安全教育の実施」(57.5%)が6割近くで最も高く、次いで「高齢者以外の方に高齢者の特性を理解してもらうための交通安全教育の実施」(34.9%)、「『3S運動』等、高齢者に対する保護意識を高める活動の推進」(33.1%)、「高齢者に対する反射材の配布」(30.0%)の順となっている。
- ・性別で見ると、「高齢者以外の方に高齢者の特性を理解してもらうための交通安全教育の実施」では〈男性〉(38.9%)が〈女性〉(32.0%)より6.9ポイント高くなっている。「高齢者に対する反射材の配布」では〈女性〉(32.5%)が〈男性〉(27.1%)より5.4ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別で見ると、「高齢者以外の方に高齢者の特性を理解してもらうための交通安全教育の実施」では〈女性60~64歳〉が45.8%と高くなっている。「『3S運動』等、高齢者に対する保護意識を高める活動の推進」では〈男性60~64歳〉が48.9%と高くなっている。
- ・前回(平成26年)の調査結果と比較すると、「高齢者を対象とした、参加体験型の交通安全教育の実施」が5.8ポイント増加している。

(7) 自転車の安全利用を促進するために必要な対策

問39 自転車の安全利用を促進するために、あなたは何かが必要だと思いますか。

次の中から3つまで選んでください。

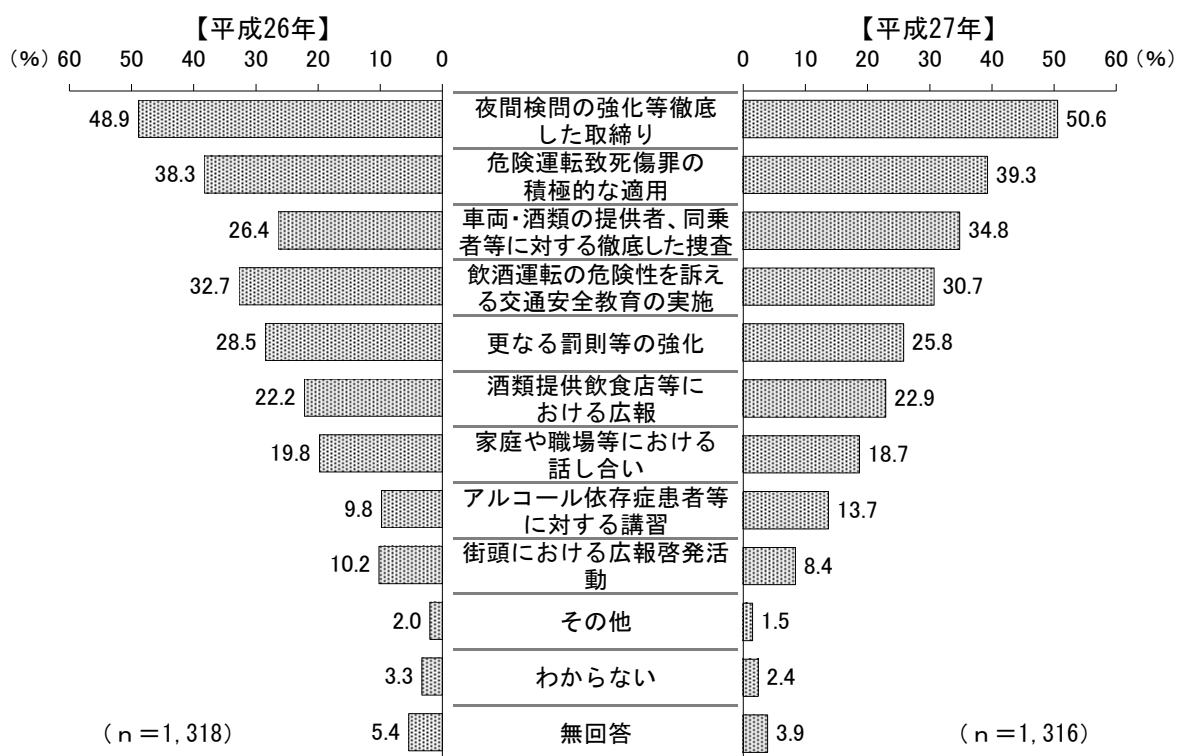
[n = 1,316]



- ・全体でみると、「自転車に係る交通ルールの周知」(62.1%)が6割を超えて最も高く、次いで「自転車道、自転車通行帯等の通行環境の整備」(50.4%)、「自転車利用者による交通違反への厳しい取締り」(33.1%)、「自転車利用者を対象とした、参加体験型の交通安全教育の実施」(23.2%)、「自転車利用者に対する反射材の配布」(20.4%)の順となっている。
- ・性別でみると、「自転車利用者による交通違反への厳しい取締り」では〈男性〉(37.9%)が〈女性〉(30.3%)より7.6ポイント高くなっている。「自転車利用者に対する反射材の配布」では〈女性〉(23.2%)が〈男性〉(18.1%)より5.1ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別でみると、「自転車道、自転車通行帯等の通行環境の整備」では〈女性40歳代〉が66.7%と高くなっている。「自転車利用者による交通違反への厳しい取締り」では〈男性20歳代〉が52.2%と高くなっている。
- ・前回(平成26年)の調査結果と比較すると、「自転車に係る罰則の強化」が3.6ポイント増加している。

(8) 飲酒運転根絶のために必要な対策

問40 飲酒運転の罰則や行政処分が強化されましたが、依然として悪質な飲酒運転は後を絶ちません。飲酒運転を根絶するため、あなたはどのような対策が必要だと思いますか。次の中から3つまで選んでください。 [n = 1, 316]



- ・全体で見ると、「夜間検問の強化等徹底した取締り」(50.6%)がほぼ5割で最も高く、次いで「危険運転致死傷罪の積極的な適用」(39.3%)、「車両・酒類の提供者、同乗者等に対する徹底した捜査」(34.8%)、「飲酒運転の危険性を訴える交通安全教育の実施」(30.7%)の順となっている。
- ・性別で見ると、「危険運転致死傷罪の積極的な適用」では〈男性〉(44.0%)が〈女性〉(36.8%)より7.2ポイント高くなっている。「酒類提供飲食店等における広報」では〈女性〉(26.4%)が〈男性〉(20.4%)より6.0ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別で見ると、「夜間検問の強化等徹底した取締り」では〈女性20歳代〉が65.1%と高くなっている。「車両・酒類の提供者、同乗者等に対する徹底した捜査」では〈男性60～64歳〉が54.5%と高くなっている。「飲酒運転の危険性を訴える交通安全教育の実施」では〈男性65～69歳〉が42.0%、〈男性70歳以上〉が41.6%と高くなっている。
- ・前回(平成26年)の調査結果と比較すると、「車両・酒類の提供者、同乗者等に対する徹底した捜査」が8.4ポイント、「アルコール依存症患者等に対する講習」が3.9ポイント、それぞれ増加している。

平成27年度

栃 木 県 政 世 論 調 査

結 果 の 概 要

平成27年10月

栃木県県民生活部広報課

宇都宮市塙田 1 - 1 - 20
電話 (028) 623-2158